

家族とくらし

元気なときのぼくへ

元気なときのぼくへ
よわむしりのときのぼくから
手紙をかきます



ぼくだって
こんなよわよわしいぼくが
キレイだよ
だけど
どうもこのところ
わりきれないことのほうが多くなって
すぐよわむしになってしまうのです

体中の細胞が
悲しみにどうぶりつかっていて
心臓の音までよわよわしいけれど
でも
もうすぐしたら
すぐきみに戻りませる
約束する!!

ぼくより

特集1 子育て中こそ積極的になりたい

特集2 仕事おこしを支援するヒューマンルネッサンス研究所

3号

目 次

photo	杉原 志保	2
インタビュー 坂本洋子さんに聞く 結婚したくてもできない男たち……。		4
おやじたちが腕まくりをはじめた3	村上 信夫	8
特集1 子育て中こそ積極的にになりたい		
① 今どきの大学生は結婚、育児をどう考えているか	窪 龍子	12
② 子どもを育てて親も育つ なみキッズの女性たち	広岡守穂・広岡立美	18
③ 子育てって楽しい	堀川美紀子	23
④ ええっ？小学校低学年がたいへん 学童保育がなかったら	広岡 立美	25
⑤ 過疎の村で子育てしながら看護婦めざして頑張っています	中村多加子	29
特集2 仕事おこしを支援するヒューマンルネッサンス研究所 コミュニティ・ビジネスに新時代の予感	村上 誠	33
夫婦の姓 あなたはどうしていますか？		
① 姓・家族・関係	鄭 栄龍	43
② 姓を選択！	神田 順子	45
③ あいまいな夫婦別姓派だから	国友 美江	47
④ 姓が変わると自分が自分でなくなるみたい	浜田 和子	49
こんな働き方を応援したい ワーカーズ・コレクティブ『パンの樹 あるれ』	村上 誠	51
ぐんま女性会議'96 ～燃える群馬の女性たち～	小野関千枝子	59
異論同感	広岡 守穂	62
ぞんなつもりひやなかつたんです4 「ふたり」 うたの手帳	加納かがり	65
エッセイ 女から女たちへ 世界につながるネットワークを 僕は、これでいい	木村 郁子	70
ホームヘルパーと主婦3 職業としての在宅介護	勝浦 恭子	71
ひなたぼっこ	大野木潤子	72
『黒い虹』を読んで	森川 美絵	74
震災遺児に心からエールを送り続けたい	広岡 立美	77
生き残った人々の悲しみの深さを想う	島 紀子	80
遙かなる日々々々	河本あゆみ	81
天使のラッパ	村上 誠	82
北京の片隅から	渡辺 綱纜	86
	李 欣欣	88

お詫びと訂正：第2号の目次の中で、名前の文字に誤りがありました。訂正しておわびいたします。

(×) 田中晴美→(○) 田中春美。 (×) 沢伸俊→(○) 澤信俊

誰よりも鋭く何かを見つめているからだろうか。

ビスクドールの眼を見ると、得体の知れない渾沌とした不思議な魅力をいつも感じる。

ビスクドールはかつて西洋で宗教的意味合いが強かった。また、宮廷内のファッション媒体として貴族に親しまれた。時代時代でその在り方を変化させてきた。

……だからなの？

眼の不思議な感覚に戸惑ってしまう。

「遠き昔からの様々な思いを内に宿す」。それを受け継ぐかのように人形を作る彼女は、どんな思いを宿すのだろうか。



VOL. 4 尾形 智 (おがた とも)

1946年金沢生まれ。趣味が高じ人形作りの世界に入る。86年ごろから教え始め、90年にアメリカのドール・アーチザン・ギルド世界大会で部門別最高賞を、91、92年には同大会でブルーリボン賞を受賞。現在は週に一度東京・日野市の自宅でビスクドール教室「メゾン・ド・プッペ」を、その他に社会教育センターやカルチャーセンターでも教室を持つ。「一人でも多くの方に人形作りの楽しさと喜びを味わってほしい」。



広岡 五年ほど前にお話を伺ったとき、女性は年齢によって結婚に対する思いが変化する。二十代だとあこがれのようなものを持っていて、三十代になると現実的に協力してつくっていくものだというふうに変わっている。

結婚したくても
できない男たち……。

すよ。どこかに、自分についてきてくれる女性がいるという甘い考えを持っていますね。女性は確実に変化して現実的になっていくのにね。これはきつと、今の「結婚制度」からつくられる男女関係かもしれませんね。

非婚の女と怖婚の男

く。ところが男性の結婚感は何歳になっても変わらないとおっしゃっていましたね。近ごろはどうでしょうか。

日本青年館結婚相談所所長
板本 洋子

VS.

広岡 立美

板本 ええ、二十代の男性も三十代、四十代、五十代の男性も結婚に対する思いは変化しないで

広岡 ところで結婚相談所のアルトマンが倒産しましたね。
板本 はい。昨年四月に東京都の行政の元祖ともいえる結婚相談所が閉所したのに続いて、今度は会員数が三万人を越えるといわれていた業界最大手のアル

トマンが閉じたんですから私たちにとっては大事件ですし、とってもショックでした。

広岡 アルトマンは学歴とか収

入とか、男女の外面的な条件、情報にもとづいて、理想の組み合わせをつくって、出会いの場を提供していました。最適の力

ツプルを見つけだそうと言う仕組みでやってきたわけでしょう。経営が成り立たなくなったのはどうしてでしょう。

板本 他の会社の内訳について

は、わかりません。また、とかく言えないことですが、男女の出会いの場は少なくなっています。それと、

結婚事情の変化

化とが何か影響しあっているのかなあと思っています。若い人は本当に多様な型の出会いの場を求めているのは事実で

す。

広岡 相談所に来る男女の比率

は変わってきていますか。

板本 ひところは七対三で男性

が多かったのですが、一時女性が増えて、また少し減りました。最近では六対四です。

広岡 増えたのはバブルの崩壊

のせいですか？

板本 そうじゃなくて、我々の

相談所の基本的姿勢に賛同したからだと思っています。何が何でも結婚させるとか、しなくてもはいけないというのではなく、女性の気持ちを抑えたメッセージを送ると女性も共感してくれます。またいろいろなイベントや講座を開くなど、多様な生き方があっていいというメッセージ

を送り続けてきたことの成果と思っています。

広岡 企業の結婚相談もあるよ

うですが異性と付き合う時間もない働き方の男性に都合のいい女性を紹介して結婚させる。生産効率を上げるために一番いい方法ですよ。でも、本末転倒だと思っんですけど。

板本 バブル時代はそれでよか

ったんです。今は時間はない。そうすると男性は時間がないことが結婚相手を見つけられない理由にできなくなってきた。男はこうあるべきということを背負わせられている。なにがなんでもがんばらなくちゃという。**広岡** そういう面では女性より大変かもしれませんね。199





板本 洋子さん

一人面接して調べたんです。そこで分かったことが四つあります。

第一番はコミュニケーションできないという悩みをかかえていました。異性と

話す機会もないし、緊張してしまうとい

よくわかったけれどあなたは私

のことは何も知らなかったでしょう」なんて書かれました。男性がどんな映画を観ましたかと

質問したので女性は「最近〇〇を観ました」というと「ああそうですね。ところでどんな食べ物が好きですか」と話題が続かないこともよくあるようです。

男性は自分では気づかず、女性に言われて、反省していました。

す。

板本 女性から見て誠実だという印象だけはあるようです。第二番目、女性が分からないというんです。夫婦像は例えば高校生だと両親の延長上にみます。

男性は自分の母親像ですね。何をやってもいいけれど最後のところで家事育児をやってくれる人として見る。でも、今の若い女性とは違いますから。

広岡 そうそう、女性は母親のことを反面教師としてみることも多いんです。お父さんとお母さんを支配関係としてみている。

0年の国勢調査をもとにした厚生省人口問題研究所による分析結果では、女性にとって結婚はしようと思えばできる、がしなんでいる。男性はしたいけれどもできないという社会になってきているようです。

板本 そうなんです。花婿学校

に応募した六十人の男性に一人

うんですね。花婿学校の受講生

も模擬デートをしてみたいというのでそんな講座も持ったことがあります。二時間模擬デートをして、後でアンケートで「こんなことをやる僕をどう思いますか」なんて聞いていました。

女性とは自分のことばかりしゃべる男性に「私はあなたのことは

女性に「私はあなたのことは

よくわかったけれどあなたは私のことは何も知らなかったでしょう」なんて書かれました。男性がどんな映画を観ましたかと質問したので女性は「最近〇〇を観ました」というと「ああそうですね。ところでどんな食べ物が好きですか」と話題が続かないこともよくあるようです。

男性は自分では気づかず、女性に言われて、反省していました。

広岡 そういえば、女性がお見合い相手に素敵なレストランを教えてあげたら「この女性は相当遊び慣れている」と言われたそうです。いまの女性は情報と

してそれくらいのこと誰でも知

っているのに、そのことが分からない男性って結構いるように

女性に「私はあなたのことは

女性に「私はあなたのことは

板本 第三番目は、結婚に対す



広岡 立美

るプレッシャーです。結婚つて

何なのか分からないのに、とも

かく結婚しなければというのが

あります。一方で、その抑圧に

対する疑問を持っている。

広岡 その点、女性はシングル

でも構わないと思っっているでし

よ。結婚のメリットとデメリット

トをけっこう冷静に見てますし

ね。

板本 第四番目は、性に対する

コンプレックスです。セックス

レス夫婦が増えてますけど、十

代の男の子が持つようなコンプ

レックスを、そのまま三十代ま

で引きずっているのですね。そ

れから、理論として、

従軍慰安婦や売春がい

けないことだと擦り込

まれているのに、そん

なことをしていた男が

いっばいいたことも知

っている。それなのに

自分ではできない。そん

なことがコンプレック

スとなっっているよう

広岡 「男は強くあれ」でなく

てもいいのに「良妻賢母」の裏

返しでしょうか。

板本 ありのままの等身大の自

分を受け入れることから始めな

きやダメなんです。男性の結

婚観は変わらないし、言葉で変

われと言っても変わるものでは

ない。こうあるべきものだと

うものを外して、頑張る男も

るし、頑張らない男もいると言

うのを認めることでしょうね。

広岡 最近大阪でメンズセンタ

ーができて盛況だと聞きました

けれど、はじめ女性センターの

間違いかと思いました。時代が

求めているということでしょう。

板本 先日、はじめてメンズ・

ル」に参加してみましたが、

男性も「長男、経済力の主力、

リーダーシップ」といういろい

ろな課題を背負っていて、それ

を外していこうと言う話し合い

もありました。男性は差別して

いる側です。女性は差別される

立場だから、女性問題とは入口

から違います。男性の場合男性

の規範という抑圧しているもの

から外れるところから出発しな

いと自分を開放していけないの

ではないかと感じました。

広岡 これからの男性の生き方

に対する姿勢が問題になります

ね。♣

聞き手／広岡立美

いたかないか

わからぬ「おやじ」

ふとまわりを見渡せば、イキイキと活動するおやじたちの仲間が、けっこう存在していた。バブルが崩壊するしないに関わらず、自分たちの足元を見据えて生きる先達がいた。後に、そんなおやじの仲間を一堂に集めた『おやじサミット』を開催することになるのだが、それは後述することにする。

地域活動に取り組む先輩おやじグループとして、よく知られているのが神奈川県川崎市『親父の会 いたか』である。おやじの腕まくり準備講座の二回目の講師として、『いたか』代表

おやじたちが 腕まくりをはじめた 3 ～会社人間をやめるとっておきの方法～



NHK「おはよう日本」の

村上 信夫

の天下勝巳さんを招き、「会社人間をやめるとっておきの方法」を教わることにした。牟田さんのエールとアルコールの力ですっかり気を良くしたおやじたちは、ワクワクするような思いで話に聞き入った。

まずは『いたか』というネーミングが面白い。すっかり家の中に「いたかないか」わからない存在になっていたおやじたちの集まりだからと、名付けられた。大下さん自身、会社に住んで自宅に通っているという毎日を送っていた。家庭での存在感は薄かった。

このままでは「毎朝出すのに夜戻る粗大ゴミ」と言われかねないと危機感だけは抱いていた。

だが、思いだけが空回り。どうしていいかわからないまま、「会社人間」でありつづけた。

そんなおり、一九八二年の秋に自宅近くの公民館で開かれた『父親家庭教育学級』に、奥さんに背中を押されるようにして参加した。そこには、大下さんと同じように「しかたなく」集まったおやじたちがいた。

話し込んでいるうちに、「帰宅して女房がいないと腹が立つ」「ゴミ捨てを近所の人に見られるのは恥ずかしい」「仕事以外の友人を持っていない」などなど、相通じることばかりだということとがわかってきた。かなり『濡れ落ち葉度』の高いことに、親近感を覚えながらもショックも

受けていた。自己紹介をするにしても、仕事のことを抜きにしては何も言うことがない。趣味と言っても接待ゴルフぐらいというのでは情けなかった。ただ、一人であれこれ考えていたときと違い、忸怩たる思いを分かち合うだけでも、大きな救いとなった。

まだいたかの

「おやじ」へ変身

「地域社会の中のおやじの役割」や「地域教育と親父の役割」といったカリキュラムで学ぼうちに、意識改革が進んでいった。男のコケンとやらにこだわりす

ぎていたことがわかってきた。仕事にも家庭にも地域にも、同じぐらいに情熱を注ぐことが、ひいては人生を豊かにするということだが、少しずつわかりかけてきた。

父親学級の終了後、グループを結成。二年目からは、夫婦で活動するようになった。月一回、土曜の夜、夕食の一品を持ちよって定例会を開く。最近では、夫の手作り料理も登場するようになったという。人前で、夫婦が本音で語り合う場を設けたのが、『いたか』らしいところといえる。夫婦で共通の友人を持つことが、いわゆる「地縁」を広げていく。

自然発生的に、家族で参加す

る定例行事も出来た。バードウオッチング、歴史散歩、しめ縄作り、ガレージセール、夏の一泊合宿……。こうした活動に参加していくことは、「地域住民としての自分、ボランティアとしての自分、家庭人としての自分」といった未開拓の自分を発見する面白さがある」と大下さんは語る。家族にとっても、父親の「もうひとつの顔」を知るいい機会になる。いまでは、いつでもいってもおやじの姿があるの

で、「また いたか」と言われているそうである。さてさて、大下さんから伝授してもらった「会社人間をやめるとっておきの方法」を受け取りではあるが、こっそりお教え

しよう。

ープに参加すれば「地縁」が広がる。

◇

会社人間卒業の10カ条

④まじめは役に立たない。軽いノリで、趣味のネットワー

クを広げていこう。仲間作りは、

①フットワークを軽くしよう。

まず自分の好きなことから…。

「部長のオレにごみひろいが出来るか」などという考えはすぐ捨

て去ろう。

て去ろう。

⑤町内会に顔を出そう。

ここに住んで良かったと思うた

②地域社会に名刺は無用。

めにも、町内会でまちづくりの

ワンカップのお酒にスルメがあ

一角を担おう。地縁・知縁・女

れば、すぐ打ち解けられる。肩

縁が増える場。

書きを知らないほうが裸の付き

⑥連れ合いの言葉に傾聴

男性の欠落しているものを女性

③公民館を大いに利用しよう。

は持っている。男の目では、見

公民館は女性と子どものたまり

えぬことも見えてくる。

場にあらず。興味のわいたグル

⑦子どもに育てられる。

おやじをやって、地域の子とも

たちと関わると子どもたちから

教わることが多い。

⑧もう一枚の名刺を持つと、

地域活動をしていると、仕事以

外の名刺が必要になってくるし、

仕事の名刺は不釣り合い。

⑨アフター5をどう過ごすか

居酒屋で仕事場のグチを言って

いても発展はない。会社人間の

殻を壊すのは、アフター5次第。

⑩自分自身のリサイクル

それぐらいの覚悟がないとダメ。

どうしたら自分を再生できるか

よく考えてみよう。

「この10カ条を頭の片隅に置いておけば、濡れ落ち葉予備軍も乾いて燃え上がることが出来るはず」と肩に力を入れることな

く語る大下さんの生き方に、お

やじたちはすっかり惚れこんで

しまった。「月金は会社人間、土

日は社会人間」という、おやじ

の腕まくりの活動の基本精神は、この時出来上がったのかも知れない。

この日、おやじたちが大下さんを囲んで、藤が丘駅前の居酒屋Yで宴を開いたことはいまでもない。♣

(むらかみのぶお)

子育て中こそ

積極的になりたい

子育ては24時間営業です。小さな子どもは片時も手が離せません。このままだと何だか社会から取り残されてしまいそうで、時々不安になることも。

でも、そういうときだからこそ、積極的な姿勢で生きていきたいと思いませんか。

今どきの大学生は結婚、 育児をどう考えているか

窪 龍子

今から三年ほど前の夏、神奈川県相模原市で女性問題全国都市会議が開催されたとき、広岡守穂先生はパネリストのお一人でした。

広岡先生は、その中で「今の若い女性で、将来家庭に入って専業主婦になりたいという人はほとんどいない」という趣旨のことを話されたのです。それを聞いていて私は、「少し違うんじゃないかな、少なくとも短大生の場合は」と感じました。

会議の後の交流会で、そのことを広岡先生にお話ししますと、先生は「いや、絶対そうだと確信がおりるようですよ。ちょうど交流会のオープニングで、私の勤務する短大のハンドベル・クワイヤーが演奏をした後でしたので、「それでは、今、学生達が控室にいます。直接お聞きになってみますか？」とさそってみました。「いいでしょう。賭けましょう」と、先生はあくまでも強気でした。

結果は、私の勝ちでした。学生達の九割方

は、専業主婦になると答えたのです。広岡先生は、何とも信じがたいというか、あつげにとられたようなお顔をなさっていました。私には自信があつたのです。なにしろ、そういうことを調査するのが、私の仕事の一つだからです。けれども、広岡先生が全面的に間違っていたわけではありません。先生が日ごろ接していらつしやる四大の女子学生の意識としては、先生のおっしゃるとおりなのです。別の会合で、お茶の水女子大学の先生も「このままでは、日本には母親になる女性がいなくなる」と本気で心配されていました。賭けの賞品は、広岡先生の学生さん達にも調査して貰えるということでした。

* * *

その時の調査結果をもとに、今どきの大学

生達が、結婚、出産、育児などに、どのような意識を持っているかについて述べてみたいと思います。

調査に答えてくれたのは、短大女子六百六十八人、四大女子三百六十五人、四大男子三百四十六人です。

一・結婚にどんなことを期待しますか。

結婚への期待の第一位は、男女とも「温かく幸せな家庭を築くこと」です。第二位は男女四大生が「ともに成長し支えあうパートナー」を期待しているのに、短大生には少ない回答でした。「好きな人と一緒に暮らす」というのは、男女とも一割に満たない回答でしたし、「妻を養う、夫に尽くす」というのは一〜二%しかありません。

それでは、結婚の相手にどんな人を選ぶかというと、外面的条件では、男子は六割以上

が「容姿」、女子の約半数近くが「収入」をあげていますし、男子も約半数が「収入」を期待されるだろうと予想しています。ただし、四大女子は短大生よりも「収入」の条件が割ほど少なく、その分「職業」が多くなっています。期待しているところは同じだろうと思われま

す。内面的条件は、男女でそれほど大きな違いはありません。男子は、性格、生活感・価値観、相性、愛情の順で、女子は、生活感・価値観、性格、愛情、相性の順に求めています。「愛情」は、男女ともトップではありませんでした。

今回の調査で、外面的条件と内面的条件のどちらを優先するか、と尋ねなかつたのは心残りです。

二・子どもは欲しいですか。

今の日本では「少子化現象」が何かと問題にされています。

将来、子どもが欲しいかどうかという質問に対しては、男女とも九割以上が「欲しい」と答えています。その人数は「二人から三人」「一人」でよいというのはわずかに四%にしかすぎません。子どもは「欲しくない」と答えたのは男子六%、女子三%でした。

子どもの性別については、男子の約半数が「男児」を望み、三割が「どちらでもよい」と答えています。女子は約半数が「どちらでもよい」、三割が「女児」、二割が「男児」を希望していました。

妊娠に対するイメージは、男女とも「不思議」「喜び・嬉しい」というものが多く、一割ほどが「戸惑い・不安」を感じています。

陣痛に対する予想は、表1にまとめたように、男女で明らかに差があります。男子の方が気楽に考えているといったところでしょう

か。

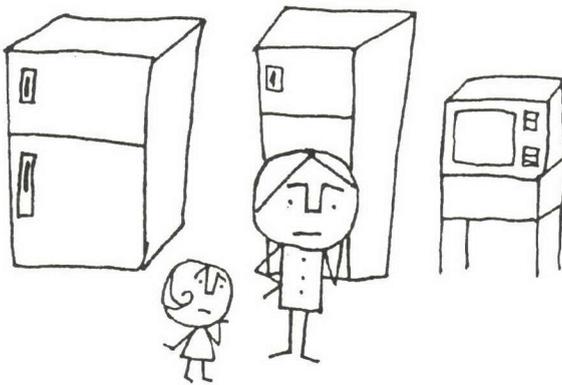
三、育児は誰が担当しますか。

「育児は誰の仕事か」という問いに対する回答は、表2のとおりでした。「母親」と答えた人が、男子を含めて予想外に少なかったことに驚きました。また、育児に追われることについては、表3のような回答でした。男・女間で微妙な差はありますが、約半数は「がんばる」というのですが、「今、親になれるか」と尋ねると、九割の男女が「なれない」と答えています。「自分が子供だから」「学生だから」「自信がない」「勉強不足」というのが、その理由です。男女とも「父母が協力して育児にあたる」と答えたのは、まだ親にはなれない現時点での考えというわけです。

それでは、子どもの親として、どんな父親、母親を期待するかといえば、男子は、「温か

くしつかりした」母親を期待しています。この事と結婚条件の「容姿」とどう結びつくのか、聞いてみたい気がします。女子は、「家族とよく接しよく遊ぶ」父親を第一にあげています。次に四大女子が「母親にないものを与えられる人」「頼れる大黒柱」を期待して

くまのきけ



いるのに対し、短大生は「子ども第一に考え、育児に協力的な人」「頼れる大黒柱」となっています。短大生は、「仲のよい家族」のイメージが強いことに気づきます。

四、将来の住まい方と仕事はどうしますか。

結婚後、親の世帯と一緒に暮らすかどうかについては、「どちらでもよい」が男女とも五割近くあり、「避けたい」の四割よりも多くなっています。「一緒がよい」という回答は、一〜二割程度でしたが、それは、多くは自分の親と一緒にという意味であり、決して従来のように、嫁ぎ先の親と一緒に考えているわけではありません。

結婚後の妻の仕事については、表4のとおりです。ここで、冒頭の広岡先生との「賭け」の話に戻ります。

「仕事を続けたい」と回答した女子のうち、

短大生と四大生とは差があります。短大生の仕事志向は、男子学生が自分の妻を予想した回答よりも低いくらいです。しかし、女子四大生のすべてが、一生仕事を続けたいと思っているわけでもありません。

* * *

女子の短大生と四大生を比べてみると、自分の置かれた環境によって、将来に対する意識に違いが見られます。あるいは、もともと意識に違いがあるから進路が違ってきたのかもしれません。

現在、高校への進学率は九十六%を超えています。高校卒業後の進路は、女子の場合を大まかにみてみますと、約四分の一が四大、約四分の一が短大へ進学し、約半数は就職などの進路を選んでいきます。今の若者の約半分を占める人たちの意識を是非とも聞いてみた

いのですが、今回のような一個人が行う調査を受け入れてくれる企業は見つからず、今まで一度も実施したことがないのです。

今回の調査は大学生を対象としているので、今の若者の意識がどうかとうだとはいいきれません。「大学生に限って」というカツコつきではありますが、若い人たちの結婚や育児に関する意識は、今までとは変わってきていると言えるでしょう。

まず、結婚生活については、多くの人たちが温かく幸せな家庭で、子育ては父母が協力するというように、夫と妻が対等な関係を築いてゆく生活を期待しています。結婚は、夫は妻を養い、妻は夫に尽くすものという従来のイメージをもっている学生は本当にわずかでした。「親と住むなら自分の親と」というわけで、「家」意識はほとんどみられません。子どもが欲しい理由にも、家の跡継ぎが欲しいからというのはなかったし、子どもの性別

への希望からも、そのことを知る事ができません。

しかしながら、男女とも約半数が、結婚の条件に「収入」をあげているところが気になります。女子の場合、「育児は対等に、収入は夫に」というのでは、少々虫が良すぎるというものでしょう。ここは、個人個人がよく考え、覚悟を決めなければならないところですよ。

次に「少子化現象」についてですが、学生達は子どもは二〜三人欲しいと言っているのに、実現していません。厚生省の少子化の原因分析には、晩婚化と未婚率の上昇があがっています。私は「そうなのかな」と感じます。晩婚化や未婚率の上昇が数字の上では確かなことであっても、なぜ、そうなのかを分析しなくては、と思います。厚生省は「賭け」に乗ってこれないので、私一人で、あれこれ考えたり、調べてみたりしてみました。

九三年にサンケイリビング社が母親達にアンケート調査したところによると、「私が子供を産まないわけ」は、「経済的理由」「自分の時間がなくなる」「妊娠時の精神的身体的苦痛がいや」「女性にばかり負担がかかる」「働きにくくなる」によるのです。「晩婚で高年齢出産だから」というのは皆無でした。

性が家庭的であることをよしとしない風潮も残っていることでしょう。つまり、旧来からの性別役割分担制度の中に飲み込まれてしまふというわけです。さらに「収入」が、自分たちの思い描く生活水準を維持できるほど多くないという現実もあるかもしれません。女性の「キャリア志向」も年々高まってきています。

大学生達が、いくら「育児は夫婦で協力して」と考えても、現実には「三歳までは母親の手で」などという「母性神話」や「三歳児神話」が、日本社会に根強くはびこっています。将来の仕事は、「育児で忙しくないときにする」と答えた女子学生が一番多かったことから、この神話が彼女たちの中にも住み着いていることが推測できます。

「母親になったからには、旧来からの生活パターンで」では、もうやっていけなくなっていることに、本人も厚生省も社会も気づかなくてはいけない時代になっています。経済企画庁の委託調査によれば、スウェーデン、ドイツ、スイス、シンガポールなどでは、社会制度の改革によって、出産率が上昇したということです。つまり、子育ての実践と責任を母親一人に任せ切りにせず、社会で応援する体制を整えたということです。日本でも厚生省、文部省、労働省、建設省が合意した

「エンゼルプラン」を掲げて、共働き家庭の子育てを支援しようとしています。しかし、支援を必要としているのは、共働き家庭だけではありません。これからの日本では、家庭のあり方が二極化していくという指摘があります。一つは、父母が協力して育児にあたるのがあたり前とする家庭で、もう一つは、父親は仕事優先で母親だけが育児の責任を負うという従来どおりの家庭です。後者では、母親の育児ノイローゼ、幼児虐待などが社会問題になりつつあります。

気楽な学生生活から社会人になってみると、現実の仕事の場では、予想外の長時間労働を余儀なくされたり、多くの企業では、男

を母親一人に任せ切りにせず、社会で応援する体制を整えたということです。日本でも厚生省、文部省、労働省、建設省が合意した

大学生が望むように、多くの子どもたちの誕生が喜びをもって迎えられ、健全な成長が保証される社会を形成してゆくことは、家族全員の課題であると同時に、社会全体の課題であるといえます。♣

くぼ りゆうこ

和泉短期大学教授

表1 陣痛に対する予想

N(%)

	4大男子	4大女子	短大女子
自信あり	154 (44.5)	65 (17.8)	141 (21.1)
何とかなる	83 (24.0)	176 (48.2)	320 (47.9)
泣き叫ぶ	7 (2.0)	31 (8.5)	46 (6.9)
無痛分娩	9 (2.6)	37 (10.1)	56 (8.4)
わからない	75 (21.7)	48 (13.2)	101 (15.1)
不明	15 (4.3)	5 (1.4)	3 (0.4)
	3 (0.9)	3 (0.8)	1 (0.1)
合計	346 (100.0)	365 (100.0)	668 (100.0)

注) 4大男子の予想は、将来の妻についての予想

表2 育児は誰の仕事か

N(%)

	4大男子	4大女子	短大女子
母親	19 (5.5)	14 (3.8)	23 (3.4)
父親	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
母親を父親が助ける	121 (35.0)	114 (31.2)	212 (31.7)
父親を母親が助ける	5 (1.4)	0 (0.0)	1 (0.1)
母親と父親が協力する	148 (42.8)	186 (51.0)	315 (47.2)
主に保育所	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
祖父母も含めた家族全員	45 (13.0)	44 (12.1)	113 (16.9)
その他	3 (0.9)	4 (1.1)	2 (0.3)
不明	4 (1.2)	3 (0.8)	2 (0.3)
合計	346 (100.0)	365 (100.0)	668 (100.0)

表3 育児に追われることに対する予想

N(%)

	4大男子	4大女子	短大女子
楽しい	40 (11.6)	44 (12.1)	133 (19.9)
当然	101 (29.2)	60 (16.4)	87 (13.0)
がんばる	149 (43.1)	199 (54.5)	381 (57.0)
しかたない	43 (12.4)	31 (8.5)	41 (6.1)
やってられない	6 (1.7)	12 (3.3)	13 (1.9)
その他	3 (0.9)	16 (4.4)	12 (1.8)
不明	4 (1.2)	3 (0.8)	1 (0.1)
合計	346 (100.0)	365 (100.0)	668 (100.0)

表4 妻の将来の仕事に対する予想

N(%)

	4大男子	4大女子	短大女子
独身時もしない	2 (0.6)	1 (0.3)	1 (0.1)
結婚まで	42 (12.1)	26 (7.1)	129 (19.3)
出産まで	30 (8.7)	30 (8.2)	86 (12.9)
できるだけする	26 (7.5)	61 (16.7)	57 (8.5)
一生続ける	33 (9.5)	70 (19.2)	26 (3.9)
育児で忙しくないとき	95 (27.5)	117 (32.1)	239 (35.8)
わからない	74 (21.4)	54 (14.8)	117 (17.5)
その他	39 (11.3)	3 (0.8)	13 (1.9)
不明	5 (1.4)	3 (0.8)	0 (0.0)
合計	346 (100.0)	365 (100.0)	668 (100.0)

子どもを育てて親見も育つ なみキッズの女性たち

広岡守穂・広岡立美

なみキッズは、小さな子供をもつ静岡の女性たちのグループだ。子育てをとうじて自分育てをしている。それがなみキッズの考え方である。昨年は絵本の原画展へのユニークな協力活動で大成功した。子育てではどんなふうに分育てにつながっているのだろうか。

本からもらった遊びで子どもと遊ぶ

『大きなかぶ』というお話がありますよね。お風呂にはいるとき、大きなかぶごっこをして（子どもと）遊ぶんです。Tシャツを脱ぐとき、うんとこしょ、どっこいしょって」

大橋洋子さんは九歳と六歳と二歳の三人の子どものお母さんだ。大橋さんは本からもらった遊びで、子どもたちといっしょに遊んでいる。三匹のヤギのがらがらどんこ

っこも大橋家のレパートリーのひとつである。

『三匹のやぎのがらがらどん』は、小学校の教科書にも採用されているからご存じの方も多いただろう。よく知られた絵本である。作者はマーシャ・ブラウン。邦訳は一九五七年に、瀬田貞二訳で福音館から刊行された。

橋のたもとでトロールが、やぎのがらがらどんを待ち伏せしている。そこへ小さなやぎのがらがらどんが、かたこと音をたててやってくる。トロールが飛びかかろうとすると、ちいさなやぎのがらがらどんは、あとからもっと大きくてもっと美味しいやぎのがらがらどんがやってくるよ、と言って去っていく。しばらくすると中くらいのやぎのがらがらどんがやってきた。トロールが飛びかかろうとすると、中くらいのやぎのがらがらどんは、あとからもっと大きくてもっと美味しいやぎのがらがらどんがやってくるよ、と言って去っていく。

またしばらくして、大きなヤギのからがらど
んが、がたんごとんと音をたててやってきた。
それはたいへん大きくて強いやぎのからがら
どんで、トロールが飛びかかろうとすると、あ
べこべにトロールをやっつけてしまった。とい
うお話である。

ちいさながらがらどんは「かたこと」、中
くらいのがらがらどんは「がたごと」、そし
ておおきながらがらどんは「がたんごとん」
と、音の響きがおもしろい。トロールが「トロ
ルだぞー」といつてあらわれる場面なんかも、
子どもの遊びに取り入れることができそう
だ。

こんなふうで大橋さんは、本からもらった
遊びで子どもといっしょの時間を楽しんでい
る。

絵本の原画展に協力

大橋さんは、小さな子どもをもつ女性たち
のグループの一員である。グループの名は
「なみキッズ」。グループができるきっかけに
なったのは、静岡市のアイセル21（静岡市
の中央公民館と女性会館の複合施設。二つが
同居しているわけである。ややこしいが、以
下アイセル21と書くときは女性会館を指し
ている）が主催する講座だった。グループの
名は、そのときの講師だった瀧井なみき先生
にちなんでつけられた。講座を受講した女性
たちがグループをつくったいきさつは後述す
ることとして、まず「なみキッズ」の活動を
紹介しておこう。

昨年「なみキッズ」のメンバーは、静岡県
立美術館で開催された絵本の原画展（主催、
静岡こども文化探検隊、朝日新聞社など）に
かかわった。

瀧井先生は、「一冊の絵本から引っぱり出
せる親子の共通の体験」を大事にしようと呼

びかけている。絵本を親と子の生活体験その
ものとしてとらえようというのだ。せつかく
原画展を開くのなら、見に来た人たちにそう
いう生活体験の楽しさを伝えることはできな
いものか。そう考えた瀧井先生は、メンバ
ー一人ひとりの絵本の体験を、ぜひ原画展の場
で生かそうと提唱した。

こうして原画展にむけての取り組みが始ま
った。

三宅元美さんは六歳と三歳の子どものお母
さん。三宅さんはロバート・マックロスキー
作『かもさんおとおり』を、子どもといっし
よに「体験」した。三宅さんはさつそく鴨に
会うために城北公園に行った。でも一日中待
ったのに、鴨はみつからなかった。鴨たちは
公園の池の反対側で寝ていた。やつと鴨に出
会った三宅さんたちは、絵本にあるとおりピ
ーナツを投げあたえた。

二、三カ月の準備期間をへて、いよいよ原

画がやってきた。原画展では受け付けや会場
の案内係をした。学芸員的な役目もちょっと
含まれていた。絵本などの展覧会では、よく

さんが「こんな原画展ははじめてだった。す
ばらしかった」と感想を述べていたことが伝
えられた。

期間中に講演会がおこなわれる。「なみキッ

生をかこむグループを結成した。こうして
「なみキッズ」が誕生した。
アイセルの講座は本当にシヨッキングだっ
た、と語るのには藤川裕子さんである。「引ッ

ズ」のメンバーは講演会を主催した。絵や作
家の解説とともに、メンバーはそれぞれの体

なみキッズは三年前の「子づれパワ
アップセミナー」からはじまった。

込み思案な性格」だという藤川さんだが、講
座を聞いていて、人とかかわりが自分を成
長させるのだと痛感した。藤川さんは、いま

験学習の成果を発表した。

堀川美紀子さんはバーバラ・クーニーの

いまから三年前、一九九四年のことである。

『にぐるまひいて』を担当した。クーニーは、

アイセル21で、三、四歳児を持つお母さん

幼稚園の役員をしている。好きな英語を生か
す道を模索中である。

木版画の手法で古き良き時代のアメリカのく
らしぶりを描いている。雰囲気は、『大草原
の小さな家』に似ている。そして堀川さんは
『大草原の小さな家』が大好きなのだ。講演
会の日、堀川さんは会場を大草原風にディス
プレイし、大草原風の服を着て発表にあたっ
た。もちろん子どもにも大草原風の服を着せ
た。

開かれた。講座は全十回で、そのうちの三回
を瀧井なみき先生が担当した。まえにも書い
たように、「なみキッズ」のメンバーはその
講座を受講した仲間たちである。
瀧井先生は、子どもを育てるときは自
分も育つていくチャンスなのだと言った。積
極的に生きることの素晴らしさがひしひしと
伝わってくる、すばらしい講義だった。そこ

アイセル21の加藤良子館長は「女性の自
立を応援するのがわたしたちの仕事ですか
ら、あたたかい目で見守っていきたくと思っ
ています」と語る。では行政は、なみキッズ
の活動をどのようにして応援しているのだろ
うか。アイセル21は「なみキッズ」を自主
活動グループとして認め、部屋の使用料を一
年間無料にし、講師謝礼を助成するなどのか

受講者がきた。あとになって、出版社の社長

講座は大成功だった。予想を大幅に上回る

画した山本多美子さん（静岡市国際女性政策

課、生涯学習担当主査)によれば、地域の公民館だと講座を受講した人々からグループができるケースは多いが、アイセル21のように市内全域を対象にしている場合はめずらしくらしい。「子育てから踏み出して自分育てにすすんでいるグループです」と山本さん。



瀧井なみき先生を囲んで

「リッチなニッチがいっぱい」

と瀧井なみき先生。

瀧井なみき先生はどんな人なのだろう。お目にかかるのが楽しみだった。

若いとき創作ダンスに夢中になった。それから子どもの本にのめりこんだ。本と遊び、本の体験学習というテーマをとことん追求しようと思った。いまは性教育に関心が深い。それからボランティアや国際交流にも興味がある。「パナマに三年間住んだことがあるから。発展途上国の人たちと交流したい」と瀧井先生は言う。

瀧井先生は講演会などに忙しく飛び回っている。以前、中学校の教諭として勤めていた。いまも静岡大学付属中学校で非常勤で教えている。子ども時代にどうしたら親子のきずなを深めることができるか、それが自分にとつて大きなテーマだったし、力を入れて取り組

んできた、とこれまでの活動を振り返る。

現在の仕事は、あえて肩書き風にいうと「性教育クリエーター」「子どもの本研究者」である。要するに瀧井先生はマルチな人なのだ。そして多方面にわたる関心を、すんなりと実践にうつすことができる人であり、そしてそれを仕事に育てていく人なのだ。積極思考の人であり、行動の人であり、ネットワークの達人である。

これからも新しいことに興味がわいてくるでしょうかと聞いたら、「この次に何がくるか分からない。たぶん老人介護かな」という答えが返ってきた。

お話をうかがったのはたった一時間ほどだったが、たくさん印象的なことばを聞いた。二つ書き留めておこう。

「友だちが育てば自分も育つ。そう考えることのできる人がいいんです」

「リッチなニッチ(すき間)がいっぱいある

んですよ。だからそのニツチから仕事をおこし、自分も育つ。そういう人をなみキッズからたくさん出したい」

すると瀧井先生のことばに答えるかのよう
に、竹下文恵さんが

「いましていることが結果として社会参画につながったらいいなと思う。きつとつなげたい」と発言した。

一人ひとりみんな個性的だから

「なみキッズ」の現在のメンバーは十七名。グループの言いだしっぺでもあり代表でもある山田久子さんは言う。

「メンバーには）子育て最優先で自分のことは二の次三の次という人もいれば、乳飲み子をかかえていても何かしたいという人もいます。少し手が離れた人もいますし、さまざまです」

それに子どもが生まれたりしてメンバーの状況がたえず変化している。だからグループの活動もたえず変化している。「子どもをあげるのでも、（活動の）じやまになるから

預けるという考えではなくて、子どもは子どもで預けられている時間にも、社会にふれて成長していると思うんです」。山田さん自身、九歳と五歳の子どもの母親であり、この年ごろの子どもを育てている女性の状況はよく分かっている。

メンバーは、一人ひとり、関心もちがうし手がけたいテーマもちがう。だからグループとして何かひとつのことに取り組むのは容易でない。一丸となって仕事をやりとげるといふより、一人ひとりがそれぞれのテーマをもっている、あるいは捜している。そういう一人ひとりが月に一回会合をもつ。そんな活動スタイルだ。山田さんはそれでいいのだという。

「一人一人のやりたいことを引き出していければいいかなと思っています。なみキッズはそういうグループなんです」。

サロン、出撃拠点、異業種交流会の母親版、同窓会、人材バンク、塾、女の梁山泊……、いろいろなことばが思い浮かんだが、どれも「なみキッズ」のスタイルを適切に表現していないように感じる。あえていえばサロンがいちばん近いだろうか。

そんな中で、山田さん自身の今年のテーマは「自分を表現する」だという。ひそかに期するところがあるような口ぶりだったが、具体的なことは教えてもらえなかった。わたしたちの思いこみかもしれないが。♣

（ひろおかもりほ・ひろおかたつみ）

なみキッズ・連絡先

054-249-0136（山田久子）

子育てって楽しい

堀川 美紀子

【編集部から】

堀川美紀子さんはなみキッズのメンバーです。楽しいおたよりをいただきました。

それでもやっぱり

子育ては楽しいよ

子育てを楽しもう……なんて、子育てに追われ、自分のことなかなり振り構わず、毎日疲れてしまっているママにとっては、ちょっと腹の立つ言葉。確かに赤ちゃんの成長過程で、かわいいなあと思うことはたくさんあるはずだ。でも疲れてしまって、心の余裕がないとつらいところだけクローズアップしてしまい、楽しいなんて思えなくなってしまう。私には六歳と四歳の娘がいる。とてもかわいと思う反面、暗いトンネルを抜け出せる

のだろうか、溺れかけて息ができません慌てるような、辛い日々もあった。

心にたっぷり栄養を

でも、娘の入園が近づくと、新しい生活に希望があふれ、車なんて乗るつもりもなかった私が、免許を取得することを思い付いた。思えばこれが、私の自分育ての始まりだった。自動車学校に通う間は、次女を預かると言っていた母の入院も重なり、かなり多忙だった。しかし、託児所を利用したことは、私にとつて、免許が取得できたという自信と共に、後の行動に向けて大きなプラスとなった。そしてあるきっかけで訪れた公民館で、「子連れパワーアップセミナー」という託児つきの講座を見つけ、参加した。そこでは、子育てをしながら自分探しができる、何事もプラスに考え、子育てを楽しんじゃえばいいと教えら

れた。そうか、子育てを楽しむって、辛いことを我慢して、いいところに目をむけるのではなく、自分自身がまず心に栄養をたつぷり吸収することで、つらいことも含めて楽しめる余裕をつくらなければならぬんだと気づいた。一回の講座が終わるごとに、娘がかわいくてたまらなくなり、託児室にお迎えに行くと、溢れるような思いで娘を抱いた。本当に心からふたりの娘を大切に思うことができようになるようになった。

心から娘をいとおしいと

思えるようになった

そして、嬉しいことに、絵本とも出会うことができた。絵本が子どもの可能性を限りなく広げていくことを知り、寝る前の読み聞かせがあまり好きではなかった私にとって、いちばん楽しい時間となってしまったのだ。今

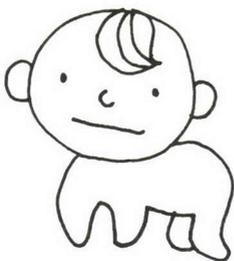
では、昼間は「怒りっぽいママ」でも、寝るときは娘たちと楽しい時間を過ごし、「だあいすきなママ」になって眠りにつくのだ。遊びにも絵本の世界が様々な場面で展開され、おもしろくて楽しい。娘たちの言葉や表情や目の輝きがいとおしくてたまらない。子育てって楽しい。私だって子育てしているんだから、今溺れかけているママもきつと大丈夫。そして一歩踏み出してみたらどうだろう。とりあえず勇気を出して前へ出てみると、暗いトンネルには出口があることに気づくはずだ。

忘れていた夢

しかし、本当の意味で楽しいと思うことができるまで、かなりの葛藤があった。自分に自信がなく、自分のことがクライだったからだ。夫婦関係についての悩み、嫁という立場

としての悩みなど、生きていたくないと思うほどの出来事もあった。それを支えてくれたのは娘の理緒と優奈の存在と、「子連れパワーアップセミナー」の仲間と結成したグループ「なみキッズ」と滝井なみき先生、忘れていた夢―大草原の小さな家を訪ねる旅（アメリカへの自分探しの旅）を実現させてくれた夫、そして「子育てと自分育て、いっしょに頑張る」と書いて下さった広岡守穂先生、大切な友人にもありがとうと言いたい。

（ほりかわ みきこ）



ええっ？小学校低学年がたいへん 学童保育がなかったら……

広岡 立美

1

女性が子育てをしながら仕事を続けることは、今では普通のことです。しかし、家事をこなし、子育てをしながらフルタイムで働くことは並大抵のことではありません。子どもが一人のうちにはなんとかやっていけても、二人目となるとたいいていの働く女性は躊躇します。

たださえ日本人は働き者なのに、そのうえ日本は男性社会です。家庭のことは妻にまかせて男は後ろを振り返らずに働くべしという考え方に支配されています。ですからそういう中で子どもを育てている女性が、男性並みに働くのはたいへんなことです。

前の総理府男女平等参画室長で現在埼玉県副知事の坂東真理子さんも「実家の母親の助けなしでは、子育てをしながら仕事を続けることは出来なかったでしょう」と自身の経験を振り返っています。坂東さんの場合、お母

さんが娘の子育てを応援するために、富山から東京へ移って来たのだそうです。

保育に関しては、坂東さんが子育てをしていた二十年ほど前に比べれば、ずいぶん良くなった面もあります。それでも女性が働きやすい状況になったかどうかといえば、まだまだです。

2

最近の保育事情はどんなでしょうか。子どもの数が減ってきて、保育園の不足という問題は、もうありません。では預ける親のニーズを十分に満たしているかという点、おおいに改善の余地があります。具体的には乳児保育と延長保育の充実が重要な課題となっています。

それはともかく、今回、働きながら子育てをしているお母さん達に話を聞き、とても意外な事実が浮かび上がってきました。それぞ

れ大変なことは変わりないのですが、保育園に通っていた時期より、子どもが成長して小学校へ通うようになってからの方が困ったというお母さんがかなりいたのです。これはどういうことでしょうか。

◇

子どもが小学生になると、お母さんの働いている子は学童保育（放課後児童クラブともいう）で預かってもらいます。低学年の場合、下校時刻に親が家に帰っていることはほとんどありませんから、家へ帰るのではなく地域の学童保育に行くのです。学童保育へ行くのは三年生になるまでが一般的のようです。ところが地域に学童保育がないところも少なくありません。あっても子どもを預けるのに不安を感じる場所があるのです。仕事をしながら子育てをしている親にとっては、学童保

育は大切なところなのに、地域によって実にいろいろです。

3

長野県に住む看護婦の小林弘子さん（仮名）は、上の子が春から小学生になるのですが学童保育が近所がありません。そのためわざわざ引越をしました。これまでは私立の認可保育園に通っていました。延長保育があり、午後七時まで預かってもらえたのです。ところが新興地で学童保育の施設が十分ではありませんでした。学童保育の施設は多くは小学校に隣接していますが、この場合二つの小学校のうち中間に古い施設があるだけでした。しかも小林さんは運営に不安を感じました。終了時刻前に勝手に家へ帰ってしまう子がいったり、子どもを安心して預かってもらえる状態ではないように思ったのです。そのことを知ったとき、なんだか梯子を外された

ように感じたといっていました。そして引越を決意したのだそうです。

そういえば石川県金沢市で高校の先生をしている堀田葉子さんも同じようなことをいつていました。子どもが小学校へいくまでは至れり尽くせりでした。ところが、地域に学童保育がなかったため、小学生になったとたん行くところがなく途方に暮れたそうです。まさに梯子を外されたのです。

堀田さんの住んでいるところは、地域に住宅が多く、転勤で金沢へ来ている人がほとんどでした。見てもらうお年寄りがないことなど、よく似た状況の親がたくさんいたので、そこで自主運営の学童を作りました。

まず場所を捜さなければなりません。学校のそばで、子どもが元気に遊べるところで、借り賃のことも考えるとなかなか適当なところが見つかりません。指導員も雇わなければなりませんし、その人が休んだ場合、代わり

の人を探さなければならぬこともありまし
た。その他、費用の集金や保険、細かい経理、

金沢市の学童保育の勉強会への参加まで、す
べて親が交代でしました。定期的に親の集ま
りをもつて、その場でみんなで決めながらの
運営は並大抵のことではなかったようです。

それも仕事から帰ってきて、夕食が終わって
からの夜の集まりです。掘田さんは「若かつ
たからできたけれど、今だと考えてしまうわ
よねえ」と子育て中の大変さを振り返ってい
ました。しかし、子ども達にとつては、親た
ちの手作りの学童保育は、きつと思ひ出深い
ものだったでしょう。

4

東京の場合はどうでしょう。区によつて多
少の違いもあるようですが、制度として学童
保育がきつちりとあります。公的に運営して
いるので補助金も出ます。学童保育の数から

いうと地方よりはずっと充実しています。し
かし内容はさまざまです。

東京都港区のある学童では、子どもの名前
がついたランドセルを入れるための棚がある
だけで、ランドセルをかたづけたらどこへ行
こうとかまわないと聞きました。時間になつ
たら預けておいたランドセルを取りに来て家
へ帰るのです。これではコインロッカーと同
じです。



もちろんそんな学童ばかりではありません
。都内でも学童保育が充実しているといわ
れている練馬区では、ほとんどの施設が小学
校の敷地内にあったり隣接しています。数人の
専従の指導員もいます。季節の行事を計画し
て子どもたちが協力しあつてそれをやりとげ
たり、いろいろなことを体験する機会が年に

何回もあります。こんな学童保育の一つに通
つていた子のお母さんの陰地照美さんが「も
しも私が仕事をしていなくてずっと家にいた
としても、こんないろいろなことを体験させ
てあげれたかしら、しかも子どもの喜ぶ顔を
見ながらね」といつていました。なによりも
子どもどうしの関係が自然で、学童保育を卒
業してからも家族ぐるみで付き合い合っている子
が何人もいるそうです。

しかし、制度化されすぎていて、子どもの
自主性を削いでしまうと懸念する声も聞きま
した。安全を考えるあまり、子どもの行動を
セーブする傾向があり、学童保育に来ていな
い子達との交流がうまくいかないのです。区
の職員として働きながら子育てをした北川洋
子さんは「活動範囲が広がる三年生にもな
ると、学童保育に行きたがらない子もいまし
た。息子も何曜日と何曜日は学童に行かない
日と決めていました。」といつていました。

この傾向は前述の金沢に住んでいる掘田さんからも聞きました。金沢では、市の職員がきちんと運営している学童保育は、児童館内の専用室や学校の空き教室を使っています。安全ですが、子どもにとって、必ずしも楽しいところではないようです。

5

こうして見ると、自治体によって学童保育に対しての関わり方に違いがあるばかりではなく、地域の事情そのものがかなり違います。たとえば石川県の場合はどうでしょうか。県の子育て支援課長の橋伸子さんにお話をうかがいました。

県都金沢市を含む石川中央圏域と、高齢化や過疎に悩む能登北部圏域とでは、学童保育に対するニーズは大きく違います。石川県の女性就業率は全国平均47.1%より高く53.4%です。その中でも石川中央圏域は5

1.0%で、能登北部圏域は55.9%です。しかし、地域あたりの子どもの数が少ない能登では、一つの学童に来る人数も、数人と少ないのです。当然規模の小さいものがいくつ必要になります。逆に金沢市では児童数が三十人以上の大規模のものが多いです。保護者の多様なニーズに対応しながら、子どもにとってどんな形が一番望ましいのかを考え、これからの学童保育の充実を進めていかなければならない、と橋さんは言います。

6

結局、女性が仕事を続けながら出産や子育てをするために必要なものは、ハード面では保育園や学童保育の充実といえるでしょう。それもニーズにあったものです。しかし、もっと重要なものがあります。それは育児や子育てに対する父親や企業などの意識です。こ

んなに男女共同参画社会に向けて議論がある

にも関わらず、働きながら子育てをしているお母さん達からお父さんと協力している話があり聞かれませんでした。安心して子育てができる環境づくりのため父親も子育てに責任を持つて関わるべきではないでしょうか。もう一つ企業の意識啓発を進めていくことも忘れてはならないのです。育児休暇を男性でも抵抗なく取れるようにするとか、子育ては社会全体のこととしてとらえて育児休暇に対する経済的保証をすることが大切なのです。極端かも知れませんが育児休暇を取らないと罰則があるというくらいにするのはどうでしょう。

そうすれば近い将来、地域に赤ちゃんの声が響くまちづくりも実現するのではないのでしょうか。制度を充実することと両親が育児に参加するようになることがこれからの課題といえるでしょう。♣

(ひろおか たつみ)

和歌山県東牟婁郡熊野川町

過疎の村で子育てをしながら 看護婦を目指して頑張っています

中村 多加子

私は、熊野川の篠尾に住んでいます。

篠尾は、和歌山県新宮市から熊野川を車で
一時間ほどさかのぼった、海拔300mの山
奥にある小さな村です。

現在戸数二十数戸、村人四十数人で、高齢
者の多い、いわゆる過疎地と呼ばれるところ
です。歴史は古く、平家の落人が隠れ住んだ
とも言われています。

◇

私たち家族は八年前から、篠尾で廃校にな
った小学校を借りて暮らしています。四十歳
で結婚してすぐに、親類や知人の一人もいな
い始めての土地、熊野の篠尾で田舎暮らしを
始めました。

小豆島の友達が結婚祝いにヤギをくれまし
た。名前はサチです。息子は、私とサチのお
乳で育ちました。

ところで、ここに移り住んだことを不思議
に思われるかもしれませんね。相棒の夫の夢
は、砂漠化する地球を緑で一杯にすることで
す。熊野の山を選んだのはそのためでした。

都会と違って、空気がおいしく、水は山か
らのわき水という、自然に恵まれた山奥の村
に、友人達もたくさん訪ねてきました。最初
の一年間で、のべ百人の友人が訪ねてきてく
れたのは、私たちも驚きました。

空いている田圃を借りて、始めての米作り
にも挑戦しました。米作りも今年で九年目に
なります。篠尾に住むようになった最初の頃
は、よくわが家の玄関に野菜が置いてありま
した。村のおばさん達が、置いていってくれ
たものです。この八年間、野菜やら漬物やら、
時には湯気の立ったおかずを持ってきてくれ
たり、大きな西瓜を抱えてきてくれたりしま
した。篠尾の人たちに支えられたくらしでし
た。

四十一歳で出産した長男も村で久しぶりの子どもということで、村中から祝ってもらい、篠尾の豊かな自然と、温かい村人に囲まれて育つて来ました。



中でも、赤ちゃんの時から本当のおばあちゃんのようにわが家の息子をかわいがってくれるおばさんが二人います。仲増のおばさんと、森のおばさんです。息子はこの二人の「ばあちゃん」が大好きです。

一歳半の頃、仲増のばあちゃんに「ばあちゃん、ソラマメ植えたん？」と言ったのが、始めてちゃんと文になった言葉でした。同じころ、家の回りでしか遊んだことがなかった息子が、いなくなつたのです。川にでも落ちたのではないか、と大声で探していると、近所のおジサンも、びっくりして駆けつけて、



一緒になって探してくれました。息子は子ども足では、かなりの距離のある、森のばあちゃんの家に向かつて、トコトコ歩いていたのです。ほっとするやら、びっくりするやら。近所のおジサンの温かさを、ひしと感じた出来事でした。

また、村でたった一人の子どものため、遊び相手がいないので、車で40分の隣の本宮町の友達の家にも、よくつれていきました。



息子が三歳になると、保育所に預けて、私は新宮の准看護学校に入学しました。四十の手習いです。午前中は病院で働き、午後は五時まで学校という生活が二年間続きました。主人もこちらにきてから、森林組合に入り、山仕事をしていたので、共働きの子育てになりました。

息子が風を引いても、軽いときは二人のおばさんのどちらかに預かってもらい、ご飯も食べさせてもらいました。わが家にはテレビを置いていないので、毎日のようにテレビを見せて貰っています。

息子が、小学校一年生になった入学式の朝、おばさん達が庭の花をもって、お祝いに来てくれました。息子も今は、バスで通学できるようにになりました。学校から帰るとすぐ、二人のばあちゃんのどちらかの家に「ただいま」といって帰り、ばあちゃんもじいちゃんも「孫が帰ってきた」と言つて、おやつをくれたり、一緒にテレビを見たり、私たちの帰りが遅いときは、ご飯も食べさせてくれたりします。息子におかずを持たせてくれることもしばしばです。

日曜日には、家の掃除や、テストの勉強に追われる私に代わって、森のばあちゃんが、保険の集金もかねて、息子を連れて村中を歩

いてくれたこともあります。この時に、昔からある山の中の近道を歩いたり、途中でおむすびを食べたりして、自然とともに生きてきた、村のおばさん達の生活の知恵を、息子に体験させてくれたり、話してくれたりします。村のおじさんやおばさんは、息子にとって、自然とともに生きる暮らし方を教えてくれる、最高の先生です。わが家では、息子が一番篠尾のことや、篠尾の言葉をよく知っています。

誕生日やクリスマスなどは、おばさんたちと一緒に祝いします。この二人のおばさん達は、田植えや稲刈りはもとより、本当の肉親のように、私たちの生活を支えてくれ、一緒に泣いたり、笑ったりしてきました。いつもお世話になりっぱなしですが。



この頃では息子も新運びやら肩たたき、漬物作りの手伝いと、いろいろお手伝もできるようになりました。私も新宮へ行くとき、仲噌のじいちゃんや、おばさん達を病院へ送つていたり、野菜を新宮の子どもさん達に届けたり、夫も重たいものを運んだり、水道を直したりと、ほんの少しですが、お役に立つこともできるようになりました。都会にいるときには、人に頼らずに、自分のことは自分でするのがあたり前と思っていました。こちらにきて、人に頼ったり、人に頼られたりする中でこそ、温かい心の交流や、信頼関係が生れてくるのではないか、と思うようになりました。



私は准看護学校を卒業して、今は新しく新宮にできた、なぎ看護学校の二年生です。近

い将来、訪問看護婦として地域の人たちのお役に立てるよう、毎日若い人たちと一緒に勉強したり実習したりしています。

夫も山仕事を始めてもう八年。毎日山から帰ると、風呂焚きや洗濯をしたり、ときには食事の支度まで手伝ってくれる頼もしい協力者です。二年前に、中国の砂漠に念願の植林ボランティアに行ってきました。去年の夏から、地元篠尾の山を管理する、山ぶとの仲間入りをしました。

又、今年からは、熊野川町の消防団員になりました。知らない土地だった篠尾が、私たちの故郷になりつつあります。



豊かな自然に恵まれ、そこに住む人たちの生活の中に、助け合い、支え合いの心が息づいている過疎地、篠尾に住み、子育てできる

ことをとてもありがたいと思っています。子どもだけではなく、私たちも、親として人として、育てていただいていると思います。そんな私たちが、何かお礼をしたいと思つてい

た矢先、去年の氏神様のお祭りの日、京都から友達が人形劇をもつて、訪ねてきてくれました。

芝居好きのおじさんやおばさん達も、初めての人形劇を、新宮から来た孫と一緒に、楽しんでくれました。

村の婦人会で、熊野川町のさつき温泉に、泊まりに行きました。村中の女の人が招待されました。息子は特別招待です。息子が三歳から六歳までの間、片道一時間の看護学校へ通うという事は、篠尾のおじさんおばさんたちの支えなくてはとうていできませんでした。村の皆さんにとっても感謝しています。お話を締めくくるに当たり、皆さまにぜひ、過疎の地と言われる地域の持つ、自然の豊か

さと、そこに住む人たちの、自然とともに暮らす知恵と生活を、もう一度見直していただけたら、と思います。

村を見下ろす、篠尾の高い山の上で、夫は今、木を切ったり、出したりしています。わが家の見えるところで仕事ができるのは、「とてもいい気持ちだ」と言います。できればもう一組みでも二組みでも、子育て家族の仲間が篠尾に来てくれたらと思います。又、都会の子どもたちにも、篠尾での暮らしが体験できたら、と思つています。

学校の庭にある銀杏の木も、この八年間で、ずいぶん大きくなりました。毎年何百個という実を付けて、私たちを楽ませてくれます。息子もこの春には、二年生になります。熊野の篠尾という過疎の村で暮らし、子育てできることを本当にありがたいと思います。♣

(なかむら たかこ)

コミュニティ・ ビジネスに 新時代の予感

女性の可能性を試してみませんか
ヒューマンルネッサンス研究所に聞く

地域の元気を盛り立てる
コミュニティ・ビジネスは
女性の可能性を発揮することが
求められる新世界です。
女性の仕事おこしを応援する
ヒューマンルネッサンス研究所は
力強い味方です。

いま女性は仕事おこしに

関心をもっている

天然酵母のパンを売る店を開きたい。地域にフリースクールをつくりたい。子どもや老人がつどう憩いの場所をつくりたい。そんな想いをかたちにできたらどんなに素晴らしいだろう。

食、福祉、教育……、地域の中で仕事おこしができたらと考えている女性はたくさんいる。でも頭の中で想像することは簡単だけれど、いざ実際に仕事をはじめるとなると並大抵ではない。ノウハウがなかったり、資金が足りなかったり、勇気が欠けていたり。家族が反対したり。そもそも小なりとはいえ事業をおこすのだから、片手間でできると思ったら間違いである。失敗するかもしれない。リスクがともなう。いろんな条件を一つひとつクリアしなければ、仕事おこしは成功しない。

女性センターや公民館などでも、最近

「女性の仕事おこし」をテーマにした企画がたいへん盛んになっている。自分流にくらしたいという思いから自然食の店を開いた夫婦、ワーカース・コレクティブ形式で在宅給食サービスの事業をおこした主婦のグループ、お稽古ごとの教室を開いた女性など、実際に仕事おこしに成功した事例が紹介され、どうしたら想いをかたちにできるか真剣に聞き入っている女性たちの姿が見られる。

女性の仕事おこしの多くは

コミュニティ・ビジネスだ

「女性の仕事おこしは多くの場合、わたしたちが提唱している『コミュニティ・ビジネス』に当たります」と、(株)ヒューマンルネッサンス研究所の細内信孝主任研究員はいう。

細内さんたちが提唱しているコミュニティ

・ビジネスというのは、「地域の中にある問題を解決する」とか「地域が持つ技術や資源を活用する」とか「自己実現や働きがいを求める」といったところから出発した事業のことである。だから一口にコミュニティ・ビジネスといってもいろいろな形態の事業がある。

日中お年寄りを介護をする「デイケアハウス」は「地域の中にある問題を解決する」タイプのコミュニティ・ビジネスと言えるし、昔から地域に伝わる伝統工芸などは「地域が持つ技術や資源を活用する」タイプに当たる。近所の子どもたちを相手にピアノの教室を開くのは「自己実現や働きがいを求める」タイプのコミュニティ・ビジネスである。女性の仕事おこしの多くは「自己実現や働きがいを求める」タイプのように思える。とにかく「地域の元気づくり」に役立つ。それがコミュニティ

「イ・ビジネスなのです」と細内さんはいう。

細内さんは昨年、川崎市の麻生区市民館で開かれた「麻生女性学級」で講師をつとめた。そこで力説したのが、女性が地域をつくる主役になるということだった。

男性中心の経済発展は日本人を豊かにした反面、人々からゆとりやふれあいの機会を奪い地域の力を弱めてきた。そのために今、いろいろな問題が出てきている。なかでも深刻なのが子育てと老人介護だ。その負担がずしりとわたりの肩にのしかかっている。

地域のネットワークがもつとしっかりといたら、子育ても老人介護も、地域の人々の手でささえたり助けたりできるはずだ。そして地域の問題解決に取り組めるのは、会社と結婚したような男たちではなく、女たちである。男たちは地域のことを知らない。つれあいが帰ってきたら聞いてみよう。「あなたはどれだけ地域のことを知っている?」「子ども

もの友だちの名前を三人以上あげられる?」と。残念だけど、たぶんあまり知らないだろう。

地域にフリースクールをつくりたいとか、子どもや老人がつどう憩いの場所をつくりたいという発想は、自分の身の回りの問題に気づいている女性だからこそ生まれた発想だ。そして細内さんは、それが地域に定着し、金銭的な自立を果たせるような仕事おこしとしてやりませんか、コミュニティ・ビジネスにしませんか、と提案している。

地域の問題を解決することは行政にとっても大問題だし、それをどうやって住民参加型でやるのか担当者の頭を悩ませている。そんなとき、その地域にコミュニティ・ビジネスがあれば、それを通して解決したり、協力しあうくさびになるかもしれない。女性の仕事おこしがそのまま地域のためにもなっているのだ。

株式会社 ヒューマンルネッサンス研究所

〒105 東京都港区虎ノ門4-3-13 秀和神谷町ビル1F

☎ 03(3438)0931 / FAX 03(3438)0921

<ヒューマンルネッサンス研究所について>

ヒューマンルネッサンス研究所は、オムロンの21世紀に向けた長期ビジョンである「ゴールドen・ナインティーズ構想」の一環として設立された研究所です。

21世紀に到来する社会を「科学技術と文化、生産者と生活者、機械と人間など、バランスを保ちながら個人や家族、企業、そして地域が新たな調和を積み上げていく『最適化社会』」と考え、その実現に向けて「人間」「生活」「コミュニティ」といった領域を視野に入れた研究活動に取り組み、豊かで活力ある社会づくりのための提案を行っています。

その仕事おこしの大事なことは、それがその地域にあつて、その地域の人々が、その地域に合った形でやる、ということ。だから、

コミュニティ・ビジネスはそこに住む人々の生活の必要性から生まれるもので、その地域にそれぞれにあるもの。結局、「コミュニティ・ビジネスは、地域の元気づくりのためのスローガンのようなもの」（細内さん）なのだ。

「あ、私、こんなアイデアを持ってる」「こんな活動なら私にもできる」「私はボランティア的にこんな活動してきた」そう思った方はいませんか。そのアイデアで仕事おこしをしたらそれはコミュニティ・ビジネスなのだ。やりたいことをやって、しかも、経済的にも自立する。誰からも喜ばれ、多くの人の役に立てる。まさに、女性にうってつけの働き方ではないだろうか。

そんなコミュニティ・ビジネスの代表例に

はどんなものがあるか、細内さんに聞いてみた。

『天水尊』の徳永さん

「カッコイイ事言えば、オレたちは墨田で生まれ、育ち、死んでいく。そして、その土地は子、孫へと継がれていくんだ。それを何とか守りてえってことだな」。そんな想いを抱く徳永暢男さんは、一般家庭に雨水をためるタンクを取り付ける活動をしている。「雨水を敬うということで、天水尊と名付けた」のだそうだ。

「近代化つてのは、便利さ楽さばかりで大切なこと忘れちまったんだな」。彼はいう。雨水をもっと大切にしてほしいと。例えば、三宅島では生活用水の70%が雨水でまかなわれている。水道水が塩素や硬度が高くてお

いしくないからだ。生活用水は雨水を利用し、雑用水は水道で、と分けて使っているのだ。それに比べ、東京はダム一個分の水をむだに流している。

東京には年間20億トンもの雨が降る。ある試算によれば、東京の一戸建ての家150戸が屋根に降り注ぐ雨を貯めると、3500万トンもの貯水量になるという。これは、都の矢木沢ダムからの年間取水量に匹敵する。「そんな雨水を利用しない手はないだろう。雨水を生活用水には使いにくいって言うなら、三宅島とは逆に雑用水に雨水を使ったらいい」。そして、雨水の利用と水の節約をすることでダム一個分のむだな費用がいらなくなる。

しかし、彼はそんな大きなことは言おうとしない。「とにかく集めて、貯めてみてください。きっと雨水が好きになりますよ」。ただ、そういうだけだ。



細内信孝 1957年生。栃木県出身。信州大卒。94年よりHRI主任研究員。「最適化社会に向けた変化・自在のコミュニティ論」ほか論文多数。最近の関心テーマは住民主体のまちづくり、市民活動、ソーシャル・マーケティングで行政、市民、企業のパートナーシップのあり方。日本経営診断学会正会員。

コミュニティ・ビジネスについて富澤が吹っ掛ける議論に日々頭を悩ませる好奇心おう盛な2児の父。趣味は版画集めなどなど。

染谷商店の染谷ゆきさん

廃油の回収業者の染谷商店は、最近V. D. F (Vegetable Diesel Fuel) という画期的な商品を開発したそうだ。これは、廃食油を軽油、つまりディーゼル・エンジンの燃料としてリサイクルしたも

のだ。そのメリットは5つある。まず、硫黄酸化物が出ない。次に、黒煙の排出量が軽油の3分の1。軽油と同等の燃費。引火点が185度と高いため、50〜70度の軽油に比べストックが安全。そしてV. D. Fを給油するときに車の改造は一切不要。もつとも天ぷら臭いという苦情もたまにあるが……ま

あ、何しろ廃食油なんだから仕方がない。実際に手にとってみたし、臭いも嗅いでみたが、びっくりするくらい透明できれいで、臭いもたいして感じなかった。そして、このV. D. F、動・植物油を原料としたディーゼル燃料は、欧米では一般的にBDF (Bio Diesel Fuel) と呼ばれ、ビッグビジネスの可能性が高いものとして誰もが認める。日本でもチャンスは十分だ。

染谷商店が画期的なV. D. Fを開発したのには理由があった。それは、代表取締役染谷武男さんの娘、染谷ゆきさんの存在だ。

ゆきさんは、元々環境問題やリサイクルに関心があり、その方面のボランティアに携わったり、仕事をしたりしていた。だが、「どうもしっくりこなかったんですよね」。

そんなとき人手が足りなくて手伝った自分の家の仕事にはたと気づく。「子どもの頃からあたり前にみていたけど、自分の足

元にいりサイクルがあった」。彼女はそこに自分の求めるものと、そして何よりビジネスの可能性を予感した。

その予感にV・D・Fという形で実を結んだ。これは従来あった技術力に、環境やリサイクルの視点・アイデアを加えて自社開発技術で生み出した製品だ。欧米ではBDFと呼んでいるのにも関わらず、あえてV・D・Fとしたのも、開発者である武男さんやゆきさんの自然へのこだわりのあらわれなのだ。「こういう活動を通して、リサイクル問題に対して処理業者からのソフト面の提案ができたらいと思っています」。

すみだりバーサイドネット

中小企業の異業種交流の中から生まれたコミュニティ・ビジネスもある。『すみだり

バーサイドネット』がそれだ。「異業種交流の中からネットワーク研究会というものができました。同じ地域にいても、意外と横のつながりはないんです。そこでネットワークをつくり、つながって情報のやりとりをやるということになった。最初は区に期待する面

もあつたんですが、区のデータベースは使えないし、仕事が生まれるのは人の顔が見える中で、つまり信頼を構築してこそ。だったら自分たちで地域の情報センターをつくらう、その中で仕事を探そうとして始まったんです」と代表の竹村行正さん。9人の有志により有限会社『すみだりバーサイドネット』が設立された。1996年10月のことだ。

インターネット・サーバーを使つての発信が現在の主たる仕事。3月からはプロバイダ業務も開始し、下町のバーチャル・ショップもつくる。その他両国小学校や老人ホームのホームページをつくったり、パソコン一般

のシステム・サポートなど、パソコン関連の業務が中心だ。

このすみだりバーサイドネットはほとんど非営利的に活動している。このバーサイドネットで儲けようとは考えていないのだ。「色々なものがあつて始めて情報の価値は生まれるし、人と人との信頼づくりが仕事おこしにつながるのではと考えています。インターネットをビジネスの視点を超えコミュニケーションの手段として利用し、そこからビジネスも生まれる」。地域がよくなることは仕事がよくなることだと捉え、人、物、金、技術の域内循環を目指しているそう。そうすることで「いままで仕事がなかった人にチャンスができれば」と竹村さんは言う。

「ビジネスのみでは空しいし、どうしても一過性のものになってしまうんです」。竹村さんの視点は多くの女性に対して持つそれに近い気がする。「ビジネスのみでは空



宮澤由彦 1967年生。千葉県出身。上智大卒。95年よりHRIにてコミュニティの研究。「ジャーナリスト」から「ジャーナリスティックなサラリーマン」を志向している。最近の関心テーマは「暮らし」と「エコロジズム」と「快樂」の統合。コミュニティ・ビジネスによる新しい時代の経済のあり方。

地域に溶け込むことを得意とするガッツある男。コミュニティ・ビジネスあるところ彼はどこにでも出没する。

はとても喜ばれ、このとき事業としてやれるかもしれない、という予感が生まれたという。そして、小泉さん他5人が中心となって株式会社A2プロジェクトが誕生した。A2プロジェクトの変わっている点は、中心になって設立した5人がそれぞれ代表権を持ち、事業展開を個々にできるようにしている点だ。柔軟に動けるようになってきているのだ。

でも事業の展開は今のところあまり芳しくない。だが、小泉さんはまったく悲観していない。

しい」本当にその通りだ。そして竹村さんは地域の活性化こそが自らの仕事おこしにもつながっていくと考えている。そしてその仕事おこしが地域を元気にしていくのだ。

異業種交流から生まれたもう一つのビジネスが『株式会社A2プロジェクト』だ。

「始めは交流だけの目的だったんですけどね」と小泉光夫さんは言う。しかし、これは全くの偶然だそうだが、メンバーの家に要介護老人がいて、その臭いに困っているという話から消臭繊維で介護用品をつくってみた。それ

「介護ショップは随分見てそのやり方そのものに限界があることがわかった」という。同じ介護用品を扱ううえで非常に参考になった。「介護用品を介護用品として置いておくだけじゃだめなんです」。

彼らが行き着いた結論は、「トータルな商品展開。そして、衣食住という人間の生活の基本的なものうち、衣・住の提供。最終的

A2プロジェクト

に人が暮らしやすい快適空間を提供する。従来は健康者と非健康者を分けた商品流通だった。しかし、要介護者にとって使い勝手のよいモノは健康者にとつても使い勝手がいい。そしてその逆もそう。それがどんな製品であれ、個々の多様なニーズに応えられるモノを提供する。そのニーズの内の一つが介護に使えるものと捉えているのだ。

「ボランティア的発想と事業上の必要性がマッチしたわけです。A2プロジェクト自体はそれほど収益をあげる必要はない。維持できないと困ってしまいますが、地域の中で貢献できるビジネスでいい。でも、ここで成功すれば全国でもできる」。

HR I が応援している

「ここで取り上げた例は、「女性の仕事おこ

し」というわけではない。でも、男性だからできた、というものでもない。男女関係なく新しい社会をつくる原動力になっている。

HR I の細内さんや宮澤さんは、そんな仕事をとおそうという女性の強い味方だ。2人、女性の仕事おこしを応援し、コミュニティ・ビジネスを広めるために、そのバックアップ組織・コーディネート組織を準備している。

実は、そういった組織はアメリカではどの地域にもごく自然にあるのだそうだ。総称して『インターメディアリー』と呼ばれているという。細内さんや宮澤さんは日本版『インターメディアリー』をつくらうとしているわけだ。その名もズバリ『日本コミュニティビジネス支援機構（仮称）』。ところで、インターメディアリーって何をするの？「要するにコミュニティ・ビジネスをおこそうという人たち

に機会と場を提供するものだ」と考えて欲しい。その上で、住民と行政と企業の間に入ってコーディネートする」（細内さん）。ちょっとでも興味をもったら3月30日に開かれるフォーラムに参加してみませんか。コミュニティ・ビジネスとインターメディアリーについて細内さんたちが詳しく話してくれます。多くの女性にちよつとでいいから覗いて欲しい。ちなみに参加費は無料。



女性だから分かること、女性だからできることがたくさんある。そして、男性の視点だけで創ってきたこの社会で果たせる役割も、その意義もとても大きい。そんな活動を仕事にしてみよう。従来のビジネスとはまた違った視座を持つビジネス。自分らしく働きたいと願う女性の求める働き方はここにあるのではないだろうか。そんな仕事おこしが必要なのではないか。♣

住民—企業—行政のパートナー
シップで

コミュニティ・ビジネスフォーラム
—地域を元気にする事業おこしと
支援の仕組みづくりについて—

1997年3月30日(日)

13:00～16:00

すみだ産業会館 第一、二会議室

(JR錦糸町駅南口 丸井9F)

参加費無料、定員60名

地域に根ざした経済のあり方

地域を元気にしたい

内容(予定)

- 開催にあたって 成田重行ヒューマンルネッサンス研究所代表取締役社長
- 基調講演「コミュニティ・ビジネスへの期待とインターメディアリーの役割」
林 泰義氏 計画技術研究所所長
- パネル・ディスカッション「活動から事業へ—各地で始まる地域を元気にする取り組み」
パネリスト 玉井袈裟男 信州大学名誉教授
小泉光夫 (株)A2プロジェクト代表取締役
竹村行正 (有)すみだリバーサイドネット代表取締役
広岡守穂 中央大学法学部教授
林 泰義 計画技術研究所所長
- 司会 細内 信孝 ヒューマンルネッサンス研究所
- ミニ・ワークショップ「コミュニティを元気にするためには」
- まとめにかえて「日本コミュニティビジネス支援機構(仮称)」
準備会発足の提案

主催 日本コミュニティビジネス支援機構設立プロジェクト／申し込み・お問い合わせはヒューマンルネッサンス研究所まで TEL.03(3438)0931

夫婦の姓

あなたは どうして
いますか？

別姓論議は私たちから

遠のいてはいないだろうか

姓で悩む女性はせめて選択的夫婦別姓になることを望んでいる。しかし、議論は進まない。論点も見えにくくなり、

このままでは、なほ崩し的に消されてしまいそう。

そんな今だからこそ言いたい。ボクの私の「夫婦別姓に一言」。

姓・家族・関係

鄭 栄 龍

帰属からの逃走

夫婦別姓が家族崩壊に

つながるかという議論がある。夫婦同性にするこ
とによつて家が呪縛とな
る……呪縛するから逃げ
たくなる。自分が自分で
あることを家が拘束す
る。だから自分であるこ
とを要求したくなる。自
己の帰属が常に家である
がゆえに、その帰属から
逸脱したくなる。結果と
して家につながれている
家族は崩壊するというわ
けだ。確かにこのことは
一面正しいことを言っ
ているだろう。したがって

別姓を望む人たちにそれ
を保証することには大賛
成である。

さて、問題なのは一面
にもかかわらず、この議
論の構図が全体化してい
ることだ。だから短絡的
に別姓とすればいいとい
う結論に至り、現在の家
にしがみついている人た
ちと同じ境位で対立す
る。また、夫婦間だけの
問題として姓を語るか
ら、それを取り巻く人た
ちや社会環境に目が向か
なくなる。

別姓は家族を

安定させるか

別姓にすれば家族関係
は安定するのだろうか。
たとえば隣国の韓国では
別姓があたりまえになっ
ている。だから家の呪縛
がなくて家族が安定して
いるかといえば、話はそ
う簡単ではない。韓国の
家制度の呪縛は日本より
も根が深い。本貫という
氏族制度は儒教的秩序の
最たるもので、家を代表
し社会的に認められるの
は男性だけである。そこ
では女性は別姓であるが
ゆえに、家に、社会に、
阻害される対象でしかな
い。この事は上記の問題
の立て方が孕んでいる問

題を照らし出してくれ
 る。つまり別姓の状態
 も差別はあるのだ。だ
 から同姓、別姓の双方に
 対して自由を保証するよ
 うな社会環境・社会認識
 を醸成することが、制度
 の変更と合わせて必要な
 だ。問題なのは同姓、別
 姓にかかわらず、家に、
 社会に諸個人の主体性の
 芽が摘まれ、お互いの姓
 を直接的に響きあわせる
 空間が脱色されていると
 いうことなのである。

ところで自分の友人
 は、タイにおいて不思議
 な経験をしてきた。彼女
 はタイで友人になった人
 に連絡をとろうとして彼
 の会社に電話をした。彼
 女は当然日本でするよう
 に彼の姓を言って呼び出
 してもらおうとした。と
 ころがである。いくら彼
 の姓を言っても電話口か
 ら戻ってくる答えは、
 「うちの会社にはそんな
 人はいません」というも
 のであつた。二、三押し
 問答をした末にいきなり
 電話を切られて、彼女は
 受話器から聞こえてくる
 虚ろなツーンという音を耳
 にしながら当惑を隠せな
 かつたという。後になつ
 て分かつてみると、会社
 の中ではあだ名しか使わ
 れておらず、誰も彼の姓
 を知らなかったというこ
 とだそうだ。彼によると
 タイでは姓が長すぎて自
 分も覚えておらず呼び方
 は常にあだ名で、それは
 新たな関係に入る度に変
 わつていったというわけ
 だ。タイは夫婦同姓の国
 であるが、この例から見
 るかぎり、姓というもの
 に執着してはいないよう
 だ。

この事を例えば先祖へ
 の冒涇だという人もいる
 だろうが、これは自己を
 過去に引きつけなければ
 表現できない精神の持ち
 主であろう。しかし姓を
 響きあわせるといふ観点
 に立てば、重要なのは現
 在を生きている人々であ
 り、過去への執着ではな
 い。逆に現在を大事にで
 きない人に過去を尊敬す
 ることができるだろう
 か。タイでの人のつき
 あい方というのはなんと
 軽やかなことであろう。
 自己を取り巻く人々との
 関係によつていろいろな自
 己を語れる社会。姓とい
 う一つの表象に頼ること
 で結晶化する単一の自己
 に執着しない。つまり自
 己が確立しているからこ
 そ、自己を持たないでい
 られる社会。タイでもい
 ろんな問題があるであろ
 う。しかし同姓の下でも
 可能になるこの存在の飛
 翔、これが保証されない
 限り別姓への制度改革も
 所詮エゴに基づいた権利
 闘争に陥る。同姓であろ
 うが別姓であろうが、そ
 れらに関わりなくお互い
 が認めあえる社会。こう
 した社会へのまなざしに
 支えられてこそ、我々は
 姓を乗り越えて家族を語
 る地平に立つことができ
 るだろう。こうした祈り
 を込めつつ、別姓論者に
 「もう一頑張り！」とい
 うエールを送りたい。♣

(チヨンヨンリヨン)

姓を選択！

神田 順子

男の既得権

て、現行通りとゴリ押しするのには、無意識に既得権を守ることに男たちが従っているのではないでしようか。枠がはずれたら男だからと尊重されずあわや脱落かと恐れているとか、既得権主張に労力を使うより、枠がとれても力量発揮できるように自分を磨いたほうがいいですよ。というのは余計なお世話。介護を心配するなら、お互いさまと気持ちよくできる社会システムを整備を夫婦別姓選択制と共にさつさと法制化したほうがプラスと

夫婦別姓が法制化され

るとは、結構柔らか頭な

んだと思っていたら、没

いずれにしろなんであん

なに騒がれるやら不思議

です。

選択制になっても、ほとんどの人は現状のまま、切羽詰っていた人が救われるというのに、なぜダメなんでしょう。

あれこれ頭を巡らせて

理由を考えてみました

が、行政サービス（国民

の手間をかけさせぬよう

一つに絞る）はあるとし

て、現行通りとゴリ押し

するのは、無意識に既得

権を守ることに男たちが

従っているのではないで

20年前の自分

ら男だからと尊重されず

あわや脱落かと恐れてい

るとか、既得権主張に労

力を使うより、枠がとれ

ても力量発揮できるよう

に自分を磨いたほうがいい

ですよ。というのは余

計なお世話。介護を心配

するなら、お互いさまと

気持ちよくできる社会シ

ステムの整備を夫婦別姓

選択制と共にさつさと法

制化したほうがプラスと

思うのですが、なにか壮

大な構想あり、私には考
えもつきません。

20年前の自分

ところで、ふつと二十

数年前の自分を思い出し

ウーンと考えてしまいま

した。

もともと日本人は全部

親戚みたいなもの、何と

名乗っても変わらないと

思っていたので、まあむ

こうの姓でいいか、名前

とのバランスもそう悪く

ないと呑気に考えていま

した。

それより第一歩は自分たちでと思う私たちと、

親の出番の最後と考えて

いた相手の両親との間

で、いろいろと問題が出

てきて、どちらでもいい

ことは妥協しようという

のが心境でした。

それでも何も聞かずに

婚姻届へ自分の姓を記入

しようとしたのにはびつ

くり、思わず

「神田つてするの？」

「アッ、ごめん。まずか

った。じゃあ内藤にしよ

う。」

神田でいいですけど。」

夕食を食べるか悩む

しかし、今思えばこの

選択はとつてもきついな

のでした。

知人のいない所での新

しい生活、神田さんの奥

さんと言われ、養われて

いるという思いに囚われ

て、一人の夕食は食べて

いいのかとさえ考えたほ

どでした。

「そういうわけじゃない

けれど、ちゃんと話し合

って決めるべきでしょ。

それが、現在無給の生

協の理事をしていて「我

が家はバックアップ体制

がバッチリ」なんてドン
と言っています。

最後に問われるもの

結局、姓を選択すると

いうのは、自分がどんな

生き方を望んでいるのか

を問われることと思いい

たりました。

だったら、選択するの

は結婚の時ではなく成人

の 때가ふさわしいとい

気がします。

戸籍を独立させて権利

プラス義務の自覚を持つ

というのがいいですね。

届出をしないと戸籍がな
くなるなんて過激なもの
いいのでは。

もつと言うなら、猫は

猫、犬は犬、人間も人間

と見たらわかるものを、

いろいろ細分せずにおお

らかに権利行使でき、義

務を果たせるようになって

いたら行政の役割は充

分と思えます。

名前記号だけど…

（かんだじゅんこ

生活クラブ

生活協同組合理事長）

と、こんな現実味のな

いことはほどほどにし

て、もう夫婦同姓は選択

の一つとする時と思いま
す。生まれてから継続し
て自分を育てるのに、記

号とはいえ普通は一つの

ほうがいいというのだ実

感です。人はそれぞれ過

不足あるからこそ、共に

暮らす意味があります。

共に、同じ所に立つて暮

らしていくのが自然では

ないでしょうか。♣

姓が変わると自分が

自分でなくなるみたい

浜田 和子

思わず笑っちゃった！

ある日の夕食時、テレビで誰かがこんなことをしゃべっていた。「家族が崩壊するおそれがあるから、夫婦別姓には反対です」。ちょうど、夫とふたりで向かい合って食事をしていたのだが、思わず顔を見あわせて、えー？と笑ってしまっ

た。というより、夫と妻のせいが違っていると、なぜ家族がこわれるの？ 私たちにとって、新鮮で素朴な疑問だった。

私たちは別姓夫婦

なぜなら私たち二人は、日常的には姓の違う夫婦

だからである。つまり、戸籍の上で、私は夫と同じ姓である。結婚するとき、たしかじゃんけん

で負けた方が勝った方の姓にしよう、ということになり、私が負けてしまったのだ。普段は、旧姓を名乗っている。なぜ普段は旧姓を使っているかというと、仕事上で姓が変わるととても不便な思いをするし、なんだか人格まで変わるような気がしたからだ。というのも、実は私はバツイチなのである。

自分でないみたい

今から約十年ほど前に最初の結婚をした。その時は、何の疑問も持たずに、夫の姓を名乗っていた。ただ、仕事をするときだけは旧姓にしていた。仕事上の付き合いをしている人に、いちいち「姓が変わりました」と説明するのがめんどろ

うだったからだ。しかし、それ以外のプライベートなところでは、夫と同じ姓を名乗っていた。四年半前に離婚した時、戸籍上も旧姓に戻った。そして再婚。またまた姓を変え

なきやいけないのかなあ。しかし、こんなにコロコロ姓が変わると、自分が自分でなくなるみたいで、いやだ。と思いつながら、右記のような経過で、戸籍上は夫と同姓、普段は旧姓を名乗ることに決めた。

敵はクリーニング屋？

ところが実際に結婚生活を始めてみると、いくら普段は別姓を名乗りたいたと思っても、徹底できなくて不便を感じることもある。一番困るのは、クリーニング屋だ。仕上

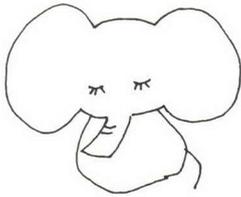
がったとき、夫に洗濯物を取りにきてもらおうと考えたときなどは、夫を氣遣うあまり、夫の姓を口にすることがある。だが何も考えずに、通称名を名乗る時もある。仕上がり時に店に入った時、「えーと、どつちの姓にしたんだっけ？」といつも悩んでしまうのだ。忘れられないのは、引越

しをした時。郵便受けに別々の姓と名前を書いたことで、隣人にげん顔をされてしまった。「おたくの名前は？」隣人は、わざわざ郵便受けの前に来て、じーっと表札を見

ながら、わたしに質問したのである。なぜ、一族は同じ姓でなきやいけないのか。よけいなお世話だ。民法が改正されて選択制になったら、すぐに別姓の手続きをしなくっちゃ。♣

(はまだかずこ)

フリーライター



「同姓同名!？」

夫婦別姓の是非をめぐって論議がさかんだけれど、世の中には夫婦が同姓同名のカップルもある。

大野まさみさんは、結婚したら夫婦同姓同名になってしまった。夫の名前は山田正巳。身も心も一つになるような熱烈な恋愛の末にゴールインしたら、名前までいっしょになってしまった。人もうらやむほど仲良しのカップルである。共働きで頑張っている。

ひらがなで書くと二人とも「やまだまさみ」さん。「まさみさん!」と言われたら、どつちが呼ばれたか分からない。カタカナの宛名の郵便物が来たときなんか、ちよつと困る。やはりどつちにきたのか分からない。これまで二回ほど名簿のリストから削除されることがあった。おなじ住所に同姓同名だからカタカナで入力すると・・・、というわけなんでしょうかね。

夫婦でご祝儀をわたすときなど、祝儀袋に夫婦連名で名前を書くとは何かヘンである。

山田まさみさんは最近、「夫のふりがな(のまさみ)です」と自己紹介している。

あいまいな別姓

国友 美江

あいまい派な私

できることならこの原稿は断ろうと思った。だってわたしは、あいまいな夫婦別姓派だから。

四年前に結婚した年、わたしは夫の籍に入ったが、仕事上は通り名として旧姓を使うことにした。夫の姓に変えてしまうことはアイデンティティの崩壊だと感じたからである。二十五年間姓と名とセットで自分を表す記号としてきたのに、急にその半分を変えれば、それは自分が自分でなくなるような、これまでの

自分を否定されるような、そんな気がした。同じころ、同僚にも、通称使用を希望する女性が結構いて、会社が認めるようになったため、それはスムーズに実現した。

消極的だけど、いいかもしれない。そうして四年間やってきて、わたしはこのやり方に満足している。アイデンティティは危機にさらされずにすんだ。困ることといえば自宅にかかってきた電話にでるとき名乗れないことくらい。

なにより本名は夫の姓になつていたので、夫婦別姓を強く主張して、生意気な嫁として夫や夫の実家を混乱させることもない。(わたしの夫は、もしわたしが別姓のために入籍を拒んだらきつと受け入れていたとは思わが)。この先子どもが生まれても、どちらの籍に入れるか悩むこともない。消極的だけど。

社会的常識を問う

しかし実際、夫婦別姓の法的な導入の是非は、このあたりのポイントで

論議されていると思う。

これまでの社会的常識からはみ出すことが「家族」に悪影響を及ぼすのではないかということに。わたし自身は、通称使用でこの問題から逃げているから、あいまいな夫婦別姓派だと思うわけだ。

望むのはいいよね

夫婦別姓に賛同はしても、周りに与えるいろいろな影響を考えると、通称使用くらいで満足するわたしのよう人も結構多いと思う。法的な夫婦別姓を自分のこととして

本当に強く望んでいる人

は、どんなに少なくても、それを望んでいる人がおり、望む理由が正当である以上、制度は必要だと思う。夫婦別姓を選択するもしないも、その人次第でよいではないか。

しかし、

やれやれだなあ

しかし、実際に制度ができたとき、あいまいな夫婦別姓派のわたしが、法的な別姓を選択するかどうか、今から悩んでいる。このまま仕事上だけ通称使用をし、法的には別姓

にしないことを選ぶよう

な気がしている。でも、法の整備が整ったなら、通称使用はもう認めない、なんて会社が言いだすかもしれない。そのときはどうしよう……。♣

くにともみえ

新聞社勤務)

「たまごっち、おやじっち、へびっち」
大流行している(らしい)たまご

ち。
きょう何時からどこで売り出しがあるなんて噂が広がると、朝からその店の前に行列ができるとか。

ホントか嘘か知らないけれど。残念ながらまだお目にかかったことがない。

餌をやってたり散歩につれていったり、赤ん坊から育てていくことだけれど、育て方が悪いと死んでしまったり、ろくなものにならなかったりする。へびっちになったりオヤジッチになったりするのだ。

「オヤジッチになったら殺してしまおう。遊んであげないとストレスがたまつて死んじゃうんだよ」
と中学生のA子。まったく、もう……。

こんな働き方応援したい

ワーカーズ・コレクティブ

『パンの樹 あるれ』



text by 村上 誠

やっぱりあるれのパンが一番ね！！

「やりがいのある仕事」「生きがいのある人生」望んでも手に入らないなら自分でつくってしまえ。そうやって主婦たちが事業を始めたら……。

主婦が事業を始めたら…

横浜市旭区の生活クラブ生協旭センターに『企パンの樹 あるれ』がある。無添加のおいしいパンを作り続けてもう八年。その味と安全性には定評があり、事業高も順調に伸びて平成八年度は八千四百万円ほどの売り上げを見込んでいる。

『あるれ』は、「家族とくらし」でも度々取り上げてきたワーカーズ・コレクティブだ。専業主婦が集まって、自分たちでつくってしまったのだ。そこに雇われ被雇用関係はない。出資金を出し合い、全員が主役になれる。

でも、それでもワーカーズつ

てなに?と聞かれることは多い。
「私たちがよく分らないの。ただ言えることは、私たちのやっているこれがワーカーズ。メンバーの小関さんは言う。ワーカーズはそれぞれ微妙に違う。それぞれ模索する中で自分たちの『ワーカーズ・コレクティブ』をつくっている。

ワーカーズって?

全国に二百五十六団体、六千九百二十七人が参加し、六十三億もの事業高を誇るワーカーズ・コレクティブ(一九九三年度)。その中でも神奈川のワーカーズは飛び抜けて規模が大きい。
神奈川のワーカーズ・コレク

ティブのはしりは一九八二年に設立された「にんじん」。一九八〇年の合成洗剤追放の直接請求運動がきっかけとなって生れた。安心して暮らすために生活クラブで食品を協同購入しているだけでいいのかという疑問が、やがて身の回りで豊かだ、便利だ、と思つて使つてきたものにはかなり問題があるのではないか、今の世の中は目に見えないところで問題が多いのではないか、という疑問へと発展していった。次第にその疑問は、産業社会そのものが歪みを起こしているのだ、環境破壊と人間疎外を引き起こしているのだ、という問題意識に変わつていった。

解決するために必要なことは

何か、みんな考えた。その結果、辿り着いた結論が、自分たちがそれを変えて行く以外に仕方がない、というものだった。地域で人と人が結びついて協力しい、本当に豊かな生活を自分たちで作つていくしかない、と。

そして、人間の生活の中心には労働がある。自分たちの想いを実現できる働き方をつくろう。そうやってできたのがワーカーズ・コレクティブ「にんじん」だった。

始めはその「にんじん」でも、豊かな生活を自分たちでつくつていこうなどという大きな問題意識を形にするには、「にんじん」ではダメだった。

そこで、同じようにして、

個々にそれぞれの分野でワーカーズ・コレクティブができていった。それは、一九八五年のことだった。リサイクルショップ、料理教室、レストラン、家事介護サービス、カルチャー教室、託児、結婚相談などを業務とするワーカーズ・コレクティブが次々と生れたのだ。生活クラブなどの活動を通して問題意識を高めていった女性が主な担い手なので、生活に密着した事業が多い。それは今も変わっていない。

あるれば超優良ワーカーズ

ワーカーズ・コレクティブも

競争社会の中の事業であること

に変わりはないので、成功もあれば失敗もある。その中でも

『あるれ』は超優良ワーカーズだ。

確実に売り上げを伸ばし、平

成八年度からは生活クラブにも

供給を開始。生産量が増えた分、

工場は朝五時から夜九時まで二

交代制でフル回転。計画購入を

軌道に乗せ、受注量が定着した

ところで過重労働にならないよ

うに運営していくのが目下の課

題、と嬉しい悲鳴を上げている。

それでも、「これまで幾度も限界

は塗り替えてきました」と小関

さんは威勢がいい。

顔が美しくならない仕事は

良くない仕事



「家族みんな『あるれ』のハンのファンです」と言う写真中の女性。店内に溢れるハンの甘い匂い。アイテムは三カ月に1度2～3種の新製品を出すそうだ。現在のアイテム数は約80種。

それにしても、どうやったら

こんな職場ができるのだろう。

『あるれ』が生まれたのは、

旭センターの入り口にできた空

きスペースでパン屋をつくった

ら、という意見が出たのがきつ

かけだった。

そこで主婦だった塚田さんが

初代代表になって、説明会と準

備会が開かれた。一九八八年の

秋のことだった。

ところで、実はこの塚田さん

なしでは『あるれ』は存在して

いなかったのだ。塚田さんは、

元々パンを焼くのが趣味で、友

人に配ったりしていた。おいし

いパンと評判になり、いつの間

にかみんなが買いに来るように

なった。代金なんていらないと

思っていた塚田さんだが、それ

ではみんなが納得しなかった。

せめて材料代だけでも……と言

つてきかなかったのだ。商売を

する気はまったくなかったが、

この辺りがひよつとすると『あ

るれ』の原点なのかも。

そして、塚田さんのパンは趣

味を越えて広がっていった。時

には神奈川ネットワーク運動の

選挙活動のため、パンを売って

その売り上げをカンパしたり、

ガレージセールなどのイベント

にも協力した。「ただパンを焼く

のが好きだからやってたような

もんなんですけどね」塚田さん

はそう言って笑う。でも、そん

な訳で、塚田さんはちよつとし

た有名人だったのだ。

だから、空きスペースでパン屋をやろうという意見も、塚田さんにお願しようという意見も、生活クラブの理事会からはごく自然に出てきた。「私も生活クラブの活動を通して、自分たちの生活がいかに汚れているものか知らされていたから、世の中のためになることをしたいと思っただけなんですよ」。是非もなく引き受けた。

でも、何しろ初めての経験。

不安が全くなかったわけではない。しかし、多摩センター駅のそばにあるワークスペースのパン屋を見学して決心がついた。「いい顔してたんなんです。目がきらきら輝いていた。ああいう顔にな

れたらなあ、と思った」。同じ主婦が生き生きと働いている。私たちにもできないわけではない。それに、「顔が美しくならない仕事をするのはよくないね」。言われてみれば、大変な仕事なのに、冗談と笑いが絶えず、どのメンバーもハツラツとしていている。不思議なほどいい顔している。なぜだろう。

パートはツマラナイ

銀行でパートとして働いていた経験を持つメンバーの中村さんは言う。「パートは所詮パートなんです。私も主任並みの仕事をこなしていたけど、どれだけ働いてもやっぱりパートでし

かない。企業に利用されているかっていう疑問がありましたよ」。

『あるれ』ができた頃、みんな悩んでいた。パートは仕事がつまらないという悩みもあったし、メンバーの大半が主婦だったので、自分の時間を持ちたい、このまま主婦だけで終わりたくない、生きがいほしい……etc。

現代代表の島田さんも「何か自分らしい仕事をしたと探していたときでした。小学校の

PTAの役員もやったけど、何か中途半端で。家にいると子どもに勉強しろVといたくなくるけど、そういうことを言うのが嫌だったから黙っているストレスが溜まってくるし……」。

そんなとき、ちょうど募集があったと振り返る。越智さんも「四十を前にして、何かしたいと思っていた。チョットきざな言い方をすれば生き方にハングリだったんですよ。このまま終わっちゃうのかなって。それがすごく嫌だった」と言う。きつと誰しもが「いい顔」になれなくて悩んでいたのだろう。

始めてはみたけれど……

『あるれ』が動きだしてからまず直面したのが資金の問題だった。製品としてのパンを作ることには不思議と不安はなかった。「無理を強要する男性原理では辛くなるから、やれる範囲で

チヨット無理して、頑張らないで頑張ろうって感じでやっていったから」と塚田さんは言う。

でも、個人でパンを焼くのと売り物をつくるのでは全然違うのではないか。「あんまり考えなかったな。とにかくやるしかないから。知らない事だらけだったし」。

技術的なことは先輩のワーカーズやパン屋『ロアル』から教わった。順番に研修させてもらったり、職人さんに来てもらって教わったりもした。

困ったのがやはり資金。日本の法律にはワーカーズという概念が存在しないので、自営業として届け出をした。今でも法律上はワーカーズではなく企業組

合ということになっている。

さて、開店のための資金を集めるために彼女たちは国民金融公庫の門をたたく。だが、借入

だ。本当だろうか？という気もするが、さもありません。

その後もなにかにつけ難癖をつけては貸し渋る。「経験的に女

性の仲良

シクラブ

は続かな

いって思

っていた

ようで、

女性に貸

すことへ

の不信感

があった

みたい」。

を申請しても、ワーカーズという概念がやはり理解されず「共

産主義的でよろしくない」とア

力扱いされて非常に困ったそう

と苦笑する。それでもなんとか六百万円の

融資を得ることができた。

でも、ちよつどブレ

ス・オルタナティブが永代信用

組合と組んで市民バンクを興し

たので乗り換えてしまった。

「何かちよつどいいやって感じた

った」。

そして、塚田さんは二く三年

分の事業計画案を提出し、ヒア

リングを受けた。その結果六百

万円を借り入れることができた。

次に生活クラブの組合員に一

口三十万円の債券を発行して三

百九十万円つくり、設立メンバ

ー十八人全員が出資金二十万円

を出し合った。都合、千三百五

十万円あまりの軍資金。これで

厨房、店舗を造り、釜、ミキサ

ー、計器、各種ワゴン……et



ヒントがずれているわけではありません。仕事中はみなさんせわしなく動き回っているのでぶれてしまうのだ。普段は笑いの耐えない職場も、工房内での仕事中は真剣そのもの。昨年、内装を変え、新しい機械を入れた。発展途上なので仕事にも自然と熱が入る。

cを揃えてようやく船出にこぎ着けた。

夜も仕事が終わらず帰宅が遅くなることも度々。

た。「それまで主婦だったものだから、自分の主張を相手に伝えることができないのね。下手っていつのか。論理性がない。

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

全てが初めての経験

慣れないうえに無添加という非常に難しいやり方。毎日が戦場だった。「よくできたと思えます。あのころは夢中でしたね」誰もが笑っている。

だ。でも、二十万円という出資は決して少ない額ではありません。それを投じて始めたのには引けなかった」と小関さん。他にも、仕事に対するイメージもメンバーそれぞれに違って、時にはぶつかったりした。一方は「仕事は甘くない」と言い、もう一方は「女の人働きやすいシステムをつくろう」と主張した。

『あるれ』を通してみんな大人になったんじゃない」とは島田さんの弁。
他にも問題はあった。メンバーには経験者も初心者もいた。時給は一律だから、多少の不満も出る。「あの人より働いているのになんで給料が同じなのか」というのだ。でも、確かに売上高への貢献だけを見れば大きかったが、手探りで始めた『あるれ』にはメンバー全員の力が必要だった。塚田さんは言う。「よいパンはセンスと努力で生まれる。みんな強い想いを抱いてい

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

出だしは好調だったが、夏場になると売上げがガタツと落ちて一喜一憂。

時給も実際には三百円程度しか払えないのに五百円で始めたから初年度は大赤字。

誰のためでもなく、自分のためだから時間はかかったが繰り返し議論し、一つ一つ乗り越え

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

その上早朝からの仕事。三、四時には起きて朝食の支度、子どもの弁当を作ってから出勤。

誰のためでもなく、自分のためだから時間はかかったが繰り返し議論し、一つ一つ乗り越え

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

その上早朝からの仕事。三、四時には起きて朝食の支度、子どもの弁当を作ってから出勤。

誰のためでもなく、自分のためだから時間はかかったが繰り返し議論し、一つ一つ乗り越え

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

たし、一生懸命頑張っていた。だから、心配していなかった。無添加のパンづくりは簡単な仕事じゃない。でも、いい仕事をしたいれば応えてくれるの」。一人一人が『あるれ』をつくっている。仕事はただパンを作るだけじゃない。人が集い人と人の関係の中で働いている。働くうちにメンバーの誰もがそれぞれに違う能力を持っていることに気づいたのだ。つくるのが巧い人、売るのが巧い人、力のある人、いるだけで場の雰囲気や和らげる人……。技術の問題ではなかった。人と人の信頼の問題だった。不満はいつの間にか消えた。「適材適所っていつのか、仲間にも恵まれて私は本当にラッ

キーだった。それに、『あるれ』には人間関係が悪くなって辞めた人はいない。これが自慢なの」。そこには、いつしか表面的な関係では決して生まれぬ確かな信頼関係が芽生えていた。

真の自立を目指して

『あるれ』はいくつもの障害を乗り越えてきた。時給も今は九百円ほどになり、生活クラブに関りのない人も働きに来るようになった。さらに、女性のものと思われがちなワークーズだが男性もいるのだ。

唯一の男性である田辺さんは言う。「無添加のパンをつくって見たかったんだけど、本当に無

添加でやれるとは思ってなかった。だからここに来てびっくりした。まあ、男一人だから肩身の狭いこともあったけど、もう慣れました。男の社会は要領のいいやつがうまく行く。でも、女性は横社会だから居心地が悪い。本当は仕事だから心地よくてはいけないんだけどね……」。

田辺さんは、以前一流ホテル内のパン屋に勤務していたそう

だ。よっぽど質の高いパンをつくっていたのではないかと思うが、そうでもないらしい。『あるれ』は主に生イーストを使い、それ以外の添加物はほとんど使わない。そのため、日もちが悪いが、味は格別。「おいしくないもの、危険なものをつくりたく

ないんです」という島田さんの言葉には説得力がある。

厚生省が認可している添加物は約百三十種。発がん性が指摘されているものもある。通常焼くのに五時間かかるのが、二時間に短縮できるものもあるそう

だ。便利さ、効率性ばかりを

追及しがちな世の中にあえて逆行しているのだ。「普通ロス率五%で経営は苦しくなりますから、『あるれ』は大変ですよね」と塚田さん。本当にその通りだ。それでも『あるれ』は確実に地域に定着していつている。

ただ、田辺さんは男の目から見て指摘する。「ワークーズって良く知らなかったんだけど、主婦だからできるって面はあると

思う。収入は低いし、時間もかかる。夫がいるからやってられるっていう面はあると思う。自立するにはまだシビアさが足りないかもしれない。とにかく地道に努力するしかないんじゃないかな」。

もちろん、そのことはメンバーも十分にわかっている。島田さんによれば、昨年十月には社会保険と厚生年金にも加入し、労働環境が整いつつある。そして、今後の課題として、まず自活できるだけの賃金レベルを達成する。次にパン屋は重労働なので、年をとっても働ける職場をつくりたいという。それから、一から積み上げてきた経験を生かしてノウハウを提供していき



昨年(2011年)の11月にはフジ系の『めざましテレビ』でも取り上げられた!! みなさんも一度訪れてみませんか。こんな笑顔があなたを迎えてくれます。

う……やっぱり居心地がいいんだよね」と照れ臭そうに話していた。

ワークスは誰にとっても心地いい働き方。自分が主役でいい働き方。そんな働き方があっていいと思う。もつともつと広がっていいと思う。本当にいい仕事をしているのであれば、見返りは帰ってくるだろう。「社会を相手に労働に見あうだけの賃金を得られる、そういう事業にしないといくら理念ばかり良くてもいけないと思う」と小関さんは言う。「結果としてお金にならないのはやり方が悪いってことだと思っんですよ。市場を相

手にしてるんですから」島田さんもそう言う。

◇

けど、『あるれ』を通してみんな大人になったんじゃない」。言葉で表すのは難しいけど、『あるれ』はつまりそんなところ。

塚田さんに『あるれ』ってどんなところですか」と訊ねてみた。「大変だけど、疲れているんだけど、どっかからエネルギーがでてくるんですよ。そして、みんな違うものを持っていて、違うものを出し合っとうまくいっている」。同じ質問を島田さんにもぶつけてみた。「みんなやってるのが面白いし、全員が経営者。いいものをつくろうと想いを一つにしているうちに結果として形になる。主婦のままだったら何も知らないままだった

最後に島田さんはワークスについていいな、つくってみたいな、という女性にエールをくれた。「やってみてできないことは何もない。踏み出しちゃう。いろんなこと考えたらできないし、頑張っていれば夫も子どももいつか分かってくれる」。何かしたい、生きがいがある、と悩んでいるあなた。自分には何もできないと思っ込んでいる主婦のあなた。仲間達と一緒にワークス・コレクティブを始めませんか! ♣

たいという。それが仕事になれ
ばいうことはないと考えている
そうだ。

課題が多いのはあたり前。始
まったばかりだし、何より遠い
先を見つめているから。設立当
初に比べれば大躍進だ。田辺さ
んも課題を指摘しつつも「なん
で俺はずっとここにいるんだろ
とだと思っんですよ。市場を相

（むらかみまこと）

手

手

手

ぐんま女性会議 '96

「カカア天下」の地で「女性会議」始まる

～燃える群馬の女性たち～

小野関千枝子

日本は、海外への援助額は四
年連続世界一だが、女性の社会
進出をあらわす指標では、世界
二十七位だそうです。

「カカア天下」で有名な群馬はど
うかといえば、例えば地方議会
に占める女性議員の割合は、わ
ずか二、一％で、全国の都道府
県の中で三十六位です。天下を
取るほど、政策決定に女性が関
わるどころか、低い位置である
ことを認めないわけにはいかな
いでしょう。

このような現状を踏まえなが
ら、女性たちが抱えるさまざま
な問題や課題を話し合い、男女
共生社会への道を探っていこう
と、昨年九月一日に「ぐんま女
性会議'96」が、前橋市で開催

されました。

中心になったのは、一昨年北
京で開催された「第四回 世界
女性会議／NGOフォーラム」
に参加した方々でした。私も、
高崎市女性政策室より参加させ
ていただきました。

北京で学んだ成果を、群馬で
も生かしていこうと、「北京の風
を群馬へく女性の尊厳の確立を
目指して」をテーマに熱気に
溢れた会議になりました。その
中から、基調報告と私の所属し
た分科会の概要をお知らせいた
しましょう。

基調報告

く三つのキーワードから

①ジェンダー②エンパワー
メント③パートナーシップ

一昨年九月、北京で開催され
た「第四回世界女性会議」は、
NGOフォーラムと合わせて、
参加者が五万人と、国連史上最
大の規模となりました。

政府間会議には、百九十一カ
国が参加し、最終日には「女性
の権利は人権であり、人権は女
性の権利である」とうたった
「北京宣言」と「行動綱領」が採
択されました。

この「行動綱領」は、世界の
あらゆる地域に持ち帰られ、「西
暦二〇〇〇年」に向けて行動に
移されることになりました。

一方、NGOフォーラムには
さまざまな民族、宗教の人々が
三万人以上参加し、「女性の目か
ら世界をみよう」をテーマに五



千ものワークショップが開かれ
(そのうち日本は百三十)、政府
間会議にも影響を与えました。
この会議は、環境、人間、人
口、開発、貧困といった地球規
模の問題解決のためにも重要な
意味を持っていました。

つまり、女性問題の解決は、
男女間の不平等を取り除くこと
もに、男性だけの論理では行き
詰まったさまざまな問題に、少
しでも解決の展望をもたらすも
のである、という新たな視点が
打ち出されたのです。

「行動綱領」のあら

ゆるところに見られる
言葉が、ジェンダー、
エンパワーメント、パ
ートナリシップという
三つのキーワードで
す。

第一のキーワード、
ジェンダーとは、女性
の進出を阻止している
社会的、文化的な性差
のことを言います。

「男は外で仕事をし、女は家庭で
仕事をするべきである」という
役割分業の考え方がこれにあた
ります。

例えば、先進国では職場への
進出が進んでいます。政策を
決定するポストにはなかなか就
くことができません。一方、途
上国の農村などでは、女性が男
性よりはるかに長時間の労働を
強いられているという実態があ
ります。

こうした男社会の歪んだ構造
を変えるには、法律や制度など
の器を変えるだけでなく、ジェ
ンダーを無意識に認めている男
女の意識も変えなければならな
いというのが、北京会議での共
通認識なのです。

第二のキーワード、エンパワ
ーメントは、女性が自らの能力
を高め、政治的にも、経済的に
も、社会的にも、文化的にも、
力を発揮できる存在になること
を言います。

つまり、国の政策や法律に頼
るばかりではなく、女性たちが
行動を起こし、家庭や政治、社
会を変革しなければ、地位向上
は手にはすることはできないとい
うことです。

そこで、第三のキーワード、
パートナリシップが不可欠にな
ります。男社会の歪んだ構造を
変革するには、男と女、NGO
と政府、国と国とがそれぞれ手
をつなぎ、協力することが必要
になるからです。

この「行動綱領」は、各国政府に対して、自国の行動計画を、NGOとの協議の下に、今世紀中に策定することを求めています。しかし、日本の課題は二つあります。

一つは国内の問題です。日本は、平均寿命や教育、収入などを合わせた指数では、カナダ、アメリカに次いで世界第三位です。ところがジェンダー・エンパワーメント測定、つまり女性の社会進出指数では、世界代二十七位に転落してしまいます。暮らし向きは高水準なのに、女性の地位はずっと低いということが分かります。こういう現状からどのように脱却できるのでしょうか。

もう一つの問題は、援助国としての姿勢です。日本の政府開発援助は九四年で百三十二億ドルです。しかし、地球上の貧困人口三億人のうち七割が女性です。読み書きが出来ない人が九

億以上いて、その三分の二が女性です。こうした問題を解決するには、途上国の女性の視点に立った開発援助が重要になります。そこでわが国では、こうした問題に取り組むため、平成六年「男女共同参画議会」が設置され、昨年七月「男女共同参画ビジョン、二十一世紀の新たな価値の創造」という答申がなされました。政府は、この答申を男女協同参画づくりの新たな行動計画

に反映させることになっていきます。

さて、北京会議以来、北京での成果をそれぞれの国や地域に根付かせようとする動きが世界各地で起こっています。

私たち群馬の女性は、今回のNGOフォーラムでワークショップを開くことはできませんでしたが、参加した一人ひとりが世界の女性たちのパワーに触れた感激を持ち帰ってきました。

そして、北京会議の成果を検討し、一人ひとりが何をなすべきか、地域の中でどのように具体化していくかを考える場として、全県レベルの会議を開催することを決めました。そして「北京の風を群馬へ、女性の尊厳

の確立をめざして」をテーマに、『第一回ぐんま女性会議』を開催することになったのです。

この会議は、普通の女性が普通の視点で、地域の問題を語り合う場として設定されました。なぜなら、女性の視点で世界を見ると世界が分かるし、また、女性の視点を取り入れると世界が変わるからです。

まず、私たちは、「行動綱領」の中身をよく知ることが必要です。そして、一人ひとりが関心のあるテーマを持って、そのための行動計画を作ることがいっばん大切なことだと思います。

♣ (おのせき ちえこ)

高崎市教育委員会嘱託)

廣岡守穂の

異論同感

夜の地下鉄の電車の中で

聞き耳をたてた

二人はツンちゃんだかツツチャンだかい
う同僚〇しのうわさ話をしていた。

ウィークデー。その日は夜間部の授業があつて帰宅が遅かつた。夜十一時すぎの電車の中でこんなことがあつた。

彼氏に「鼻毛を取つて」

とねだつたツンちゃん

いつものように地下鉄有楽町線の車内は満員に近い状態だつた。わたしはつり革につかまつて「五分で一級」という雑誌の詰め本を考えていた。目の前に二人連れの若い〇しが座つていた。だいぶ酔つている様子だつた。

さてツンちゃんは、休みの日の昼下がり、青山通りをボーイフレンドとぶらぶら歩いていた。そのとき突然、腕を組んで歩いてきた彼がツンちゃんの顔をのぞき込んで「鼻毛が見えてるよ」と言った。

二人はほがらかな笑い声をたてながら話している。聞こえてくる話の内容から判断すると、会社の打ち上げか何かがあつたらしい。あんまり楽しそうなのでつい聞き耳をたててしまった。わたしはだんだん引き込まれ、詰め本の方はお留守になつてしまった。

よせばいいのにツンちゃんは「抜いて抜いて」と彼にせがんだ。二人の女性たちは、「ツンちゃんらしいよね」とうなづきあつていたから、ツンちゃんは、きつと平気でそういうことができる性格の人なのだろう。人通りの多い休日の青山通りである。わたしはツンちゃんという女性が、青山円形劇場あたりの歩道で立ち止まり、空を

見上げるようにして鼻の穴をボーイフレンドに見せている姿を想像してしまった。

ツンちゃんの彼は立ち止まって、ツンちゃんの鼻の穴に指を持っていき、鼻毛を抜こうとした。でも抜けない。もう一度抜こうとした。でもやっぱり抜けない。また抜こうとした。今度も抜けなかった。

しかし引つ張った勢いで鼻毛はちりちりにカールし、そのため鼻の穴の中に入ってしまった。それで見えなくなった。めでたしめでたし。

みんな聞こえないふり

〇しの二人連れは、だいたいそういうことを話していた。おかしくてならないようだった。最後の鼻毛がカールするくだりになると、二人ともお腹をよじって笑っていた。二人はもう何度も話題にしているらし

かったが、何度思い出してもおかしくてならないようだった。

わたしもおかしかった。笑うのをこらえるのに苦労した。がまんしても、笑いがこみあげてくる。大声をあげていっしょに笑いたかったが、結局、できなかった。周囲の乗客がみんな、申し合わせたように無表情にとりすましているのである。

だれも彼も、知らぬ風をよそおっていた。もしかすると、みんなしつかり聞き耳をたてていて、みんな笑いたくたしうがなかったのかも知れない。いや、きつとそうだったに違いない。だのに結局、みんな我慢していた。大都会だなとつくづく思った。

詰め碁は、結局、解けなかった。自分の名誉のために断っておきたいが、わたしの棋力は実力四段である。「五分で一級」などという詰め碁は、お茶の子さいさい、解け

ないはずはないのである。それなのに解けなかった。上の空になってしまった。

家族の反応

翌日夕食のときにその話をした。絶対に受けると思ってた得意になって話したのに、あにはからんや、つれあいからも子どもたちからも大顰蹙をかってしまった。

これはまさかの展開だった。あまりのことにぶ然としてみると、つれあいも子どもたちも声をそろえてわたしを非難した。「せつかくの食事の時間なのに、汚い」というのである。

そのときは大人しく引き下がった。しかし、である。正直言ってわたしは腑に落ちないのである。

カールした鼻毛の話題は食卓にふさわしくないであろうか。汚いであろうか。たと

え多少汚いとしても、おかしさがその分を補ってあまりあるのではないか。

はつきり言つて、つれあいの反応は過剰反応だと思う。上品ぶっているだけではないか。そして子どもたちは、その尻馬に乗っているのだ。

もつというつと、つれあいは女らしさを過剰に演出しているのではないか。ほんとうに汚いと感じたのだろうか。ちよつとしたことでも汚いと言つたほうが女らしい。そう思っているのです、カールした鼻毛を汚いと騒ぐのではないだろうか。

きたないのはだれ？

考えてみると、わが家において、わたしはしょつちゅう、汚いといつて非難される。おならをしたとか、人の方を向いて歯を磨くとか、パンツ一枚で歩き回るだとか、楊枝を使うとか、エトセトラ etc、である。

「下着を毎日とりかえる必要はない」と主張したときなど、まるで犯罪を取り締まるよ

うないきおいで糾弾されたものである。しかし、そういうつれあいだつて、歯も磨いているし人知れずおならもするはずだ。暑いときはパンツ一枚で涼みたいと思つているに違いない。

下着を替えるのにしても、二日に一回にすれば洗濯物の量は半分になる。経済的だし資源の無駄遣いにならない。そもそも洗濯機が普及するまでは、洗濯はたいへんな重労働だった。だから洗濯も今ほど大量かつ頻繁にはしなかつたものだ。

わたしが非難されるのは、ただたんにおならをしたり歯を磨いたりするからではないだろう。それを人前でするから非難されるのである。つまりマナーに反するという理由で非難されるのである。

しかしながら、本当はそういう非難の仕

方こそマナーに反しているのではないだろうか。

もしも電車の中でとなりに座っている人がおならをしたら、あなたは声を出して非難するだろうか。鼻毛を引っ張ったり枝毛をむしつたりしていたら、面と向かつてエチケット違反だからやめろと言つだろうか。言わないはずである。そういうときは知らぬふりをするのが、紳士淑女のおこないというものである。

そうだとすれば、夫がパンツ一枚でうろろしているくらいで騒ぐのは、騒ぐほうがマナー違反なのではないだろうか。

そういうときは、さりげなく目をそむけて、見て見ぬふりをするのが正しいと思うのだが、読者のみなさんのご意見はいかがだろうか。(おたよりを待っています)。

それにしても彼女たちのうわさ話、まったく面白かった。(ひろおか もりほ)

そんなつものびやなかつたんです・・・ VOI. 4

自分の幼い娘に「嫉妬する」と言った母親

がいる。私の友人で、子どもを連れて再婚

したばかりの人だ。すったもんだの末

やっと離婚したと思ったら、あつと

いう間に新しい夫を見つけた。

そのあまりの早業のせい

で、きつと離婚前から

加納かかろ

彼氏がいたに違いないと

周囲から噂されたほどだ。

しかし確かに、そんな風に言われ
るのも無理はないな、というような面

が彼女にはあった。良くいえば男性に非常
にもてるタイプ、悪くいえば危なっかしい女性
である。

恋愛至上主義みたいところがあり、好きという気持
ちは、いかなる場合においても正しい、と思っ
ているよう

なふしがあつた。最初の結婚をした後も、洋画のサークルで知り合つた年下の男の子に、平気でラブレターを書いたりしていた。

だが、私はけっこう彼女が好きだつた。若い母親のなかには、頭の中身がすっかり母親一色になつてしまい、口にする話題といえは自分の子どものことばかり。その人自身の力がほとんど感じられない、というような人がかなりいるが、彼女にそんな面はない。常に自分の世界を持つていているという風情があり、同時に素敵な母親でもあつた。いとおしそうに娘を抱きながら、「恋人みたいに可愛い」と表現した。



しかし、その恋人みたいに可愛いわが娘に、嫉妬してしまつたのはどうしてか。それはもちろん、新しい男のせいである。夫が自分よりも娘を可愛がりすぎると、涙声で訴えてきたのだ。

「夫が娘にキスしているのを目撃しちゃつたの。もう、あの子が邪魔でしようがない」
私も少しびつくりした。あなたの彼氏はロリコンじゃないの？ という言葉をぐつと抑え（余談だが、彼女は問題のある男性ばかりを好きになる傾向がある）、「可愛がつてもらえるのは結構なことじゃないの」などと、つまらない慰め方をしてしまった。

ふつうに考えれば、夫が連れ子を可愛がつてくれるなんて、こんなに有り難いことは

ない。けれど恋する女にとっては、宝物のように可愛がつていた娘でさえ、自分よりも愛されている（ようにみえる）のは我慢ならぬらしいのだ。

わが子を「邪魔」と言つてしまふ彼女のパワーには圧倒させられるが、そんな風に思つてしまふ自分自身を責めてもいるらしく、それだから、涙声だったのだろう。

再婚相手と連れ子の仲が悪いのは困るが、仲が良すぎるのも心中穏やかじゃない。なかなか、あつちもこつちも上手くはいかないものだ。



男女の関係を考えるとき、私はときどき、『髪結いの亭主』というフランス映画を思い出す。恐ろしいほど美しく、危うい時を過ごす二人の話だ。

主人公である中年の男性は、子どもの頃から夢見ていた「髪結いの女性との結婚」を実現させ、この上もない幸福な日々を過ごす。仕事する美しい妻をうつとりと眺めながら、彼は独白する。「彼女の腹がふくらみ、子どもが生まれることはあり得ない。なぜなら、二人でいることが完璧だから」。

二人の関係は蟻の入る隙間もないほど完璧なので、子どもなんか邪魔なのだ、二人きりでなければ至福の時はあり得ないのだと、いうのである。

そして最後に、妻は川に身を投げる。「あなたを、とてもとても愛している。だから、

この愛が壊れてしまう前に死ぬ」という内容の遺書を残して。

なんということだ。男も男なら、女も女である。この二人には、「子どもは二人の愛の証」とか、「愛は生きるための力」などという、前向き(?)な思想はないらしい。

フランス人は哲学のしすぎで頭が壊れている！　と思っただけれど、その一方で、私は深く感動もしていた。

至福の関係は二人の間にしか存在しない。

確かにそうかもしれない。

いや、そういうよりも、人間関係というのは、男女に限らず、すべて一対一の、二人の間でのみ成立しているとも言えるのではないだろうか。だから三人以上というのは、二人の寄せ集まりである。親子三人が仲良しの家族があったとしたら、夫婦、母子、父子という独立した三つの関係が、それぞれ上手くいっていることと言える。

そして、一対多の関係があったとしたら、それは人間関係ではなく、「政治」というべきじゃないだろうか。

そうしたら、こういう言い方もできる。昔の父親は政治家でいさえすればよかった。けれど政治家の位置を失くした(もしくは放棄した)現代の父親たちは、人間関係家としての自分をいまだ見いだせずにいる…人たちが多い。

人間は三種類ある。人間関係の才能がある人。政治の才能がある人。その両方の才能がある人。



話をもとに戻そう。「子どもが邪魔」という話には、もうひとつ心あたりがある。谷崎潤一郎が、「自分の芸術の源」と讃えた松子夫人を中絶させた話だ。夫人が「生みたい」と何度も懇願したにもかかわらず、そうさせなかった。

それは、「髪結いの亭主」と同じ理由からだったのだろうか。二人の関係を至上のものと考えた上での、答えだったのかもしれない。でも、そうだとしても、私は谷崎が許せない。なぜなら、松子夫人が生みたがつていたからだ。相手のたつての願いよりも、二人の関係性の方が大事というのは、愛のように見えて、結局はただの自己愛ではないのか。

人は変わるもの。下手な細工をしたところで、どうせ至福の時間は長くは続かない。だとしたら、その変化をいさぎよく受け入れるのも、人としてのカッコ良さではないだろうか。♣

(かのう かがり エッセイスト)

眠らざらん人笑顔と願うなり

星瞬くも音鳴り止まず

木村郁子

と。

高校教諭で、文学・教育・宗教をテーマに公演、執筆、テレビ解説に大活躍の最中……あまりに謙虚で親切で誰にも優しいお人柄が、ご自身の「いのちの糸玉」の糸を早く引かせ過ぎた気がする。先生が寓話から引用されたこの言葉は、エッセイ集の題名となり昨秋出版された。

ご本人の無念さは察するに余りある。ご夫人のお嘆きの深さはそれ以上だろう。ご両人を励ます術も、かける言葉も見つけられず、ひたすら夜空に向かい奇跡を祈っている私である。♣

古典講座の講師をして下さっていた先生が「しばらくの間お休みをいただきます」と、意でさらにお願いできるはずだった。すぐに入院されたのが昨年三月だった。

受講する側を飽きさせない巧みな講義は大人気で、いつも定員をはるかに超える申し込紙が届いた。

みがあり、対応に苦慮した。

「私も楽しかった」

木村郁子（まきむら いくこ）岐阜県大垣市在住。一九四七年、岐阜県生まれ。一九九五年、歌集『偽善者の糸』出版。

女から女たちへ

世界につながるネットワークを

勝浦 恭子

女性史研究家の加納実紀代さんらが手がけ

た労作『全共闘からリブへ』（女たちの現在を問う会編／インパクト出版会発行）を読んだ方はいらっしゃいますか？昨年の7月に発行され、70年代ウイメンズリブの貴重な資料としてマスコミなどでも大きく取り上げられたが、私の所属する「ウイメンズネット旭川」でも、さっそく何冊か取り寄せたところ、あつと言う間に完売。メンバーに団塊の世代が多いといえばうなずけるものがある。496ページという分厚さながら、1960年代にかけて学生だった

世代（つまり私）にとっては、かぎりなく懐かしい同時代史であり、ウーマンリブと呼ばれた運動に関わっていた女たちの強烈な個性が伝わって来て、読みながらいつしか心はあのころの新宿へ、渋谷へとタイムスリップしていった。そして思わず沖繩は石垣島に住むわが学生時代の友人「エリ」へとダイヤルを回したのだった。

エリこそ私が学生時代に出会った強烈な個性の持ち主。映画を論じ、詩をつくり、はては寺山修司の「天井桟敷」の女優までやってのけた、才気あふれる女だった。新宿の風月堂でおいしそうにタバコをふかしていた彼女も、大波小波にゆれゆられたあと故郷の石垣島に帰り、子どもをふたり産んで、20年もどっぷりと太ったのんびり母さんをやっていたのだった。しかし、いつの間にか再び詩をつくり、俳句をつくり、地元の八重山毎日新聞の俳句選者となっていた。

ウイメンズネット旭川のみなさん



その彼女と28年ぶりに東京で逢うことになった。お互いの子どもが東京の大学に進学したこと、彼女が大手出版社から句集を発行することになったことから、この機会に会おうと決まった。一緒にバイトしていた「アートシアター新宿文化」という映画館も今はなく、新宿も東京も大きく変わってしまったが、今だに私たちにとっては東京といえは新宿なのである。彼女には新宿を詠んだ詩や句も多いが、編集者の目に止まり句集発行のきっかけとなった作品を一句紹介しよう。

修司忌と 独りきめおり メロン裂く

彼女の詩を最初に認めたのが寺山修司だったことを思うと感慨もひとしおだ。

「寺山さんは、まるで修学旅行の生徒を引率している、話のわかる先生のような感じなのよ」とかつて彼女は言っていた。有り余る表現力とその才能を東京という舞台ではついに発揮しきれず、一時はフーテンのように新宿

という街をさまよっていた彼女。その彼女が、故郷に帰って結婚し子どもを産み育て

たが、才能とそれを評価する世間というもの

る時間の中で、再び豊かな表現活動を行うようになったことに、女性の生命力の計り知れない強さを感じる。同じ時期に天井棧敷に関わっていた小椋佳が、東大を卒業し銀行に勤めながら、独特の形で創作活動を行ってきたことをマスメディアで目にする

を、考えさせられた。句集の発行をきっかけに、彼女が全国区で評価されると信じている私は、南と北をネットして、ハチャメチャに自分勝手でおもしろい女性向けの雑誌を創刊できないものかと、あれこれ企画を練って楽しんでいる毎日である。(かつうらきょうこ フリーライター)

僕はこれでいい

大野木 潤子

今日は児童館で絵遊びクラブが開かれる。もう十年近くにもなるうか、好きな絵を通して三歳から小学生、或いは障害児とかかわ

って子どもたちとともに、その世界を広げてきた。

というのも、わたしの友人の一人に航空力

学の世界に身を置く人がいる。彼が何かの折りに、ふと洩らした言葉がある。

「わたしが母に感謝していることのひとつに、幼いとき絵を習わせ続けてくれたことがある。いま、航空機的设计を考えると、ときには大きく全体を見、或いは細部にこまかく神経を使わねばならないとき、絵を習っていたことが生きてくるんです。きちんとものを見る目が育てられたと思います」

もちろん他の要素が複雑にからんで今日の彼がいるのだが、絵と子どもたちにかかわっているわたしには嬉しい言葉だった。

◇

そのクラブの中にG君がいる。四歳。お母さんといつしよに来館する。お兄ちゃんは小学校高学年、すっかり分別がついた中で、G君の乱暴ぶりは見事だ。ひっくり返って主張を通す。甘え方もひと通りでない。絵を描いている最中でも、いつどこから彼が飛びつい

てくるか分からない。ドーンと身体を預け、首に手を巻いてびったりとくっついて離れない。髪型の変化にも敏感で、

「あ、髪が短くなつたね」と誰よりも早く認める。

◇

そんな彼が夏の始め、教室でつむじを曲げ、荒れた。ひっくり返ってお母さんを足で蹴りながら、持ってきたクレパスのふたを破り、粉々にちぎってばらまいた。誰がなだめても泣き叫んで手を振り回している。お母さんもどうしようもない。わたしはだまって千切れたふたを拾い集め、切手大の破片を一枚一枚セロテープでつなぎ続けていた。ただゴミの処理に困ったことだったかもしれない。全部つなぎ終わろうとしてふと気づくと、G君はじつとわたしの手を見続けていた。横でお母さんが「こんなになつてしかたがないわね。又買うから、そんなに貼らなくてもい

いですよ」

とわたしに気の毒がついていらした。

◇

それから六カ月、G君は、わたしの貼り合わせたふたのクレパスを持って、いまでも通い続けている。お母さんの「買ってあげようか？」に「これでいい」と言つて。

お魚の写生が大好きで、鯖やかに、いかを精いっぱい描いて帰っていく。

あのがまま坊主が、お母さんをすっかりリードしながら、きちんと後片付けもし、一時間を楽しんで帰っていく。

「抱っこ」と飛びついてくるのだけは半年前のまんまだが！

子どもにかかわって生活する大人の、子どもへの影響を緊張して受け止めているが、こんな子どもを見つけたのは、何とも嬉しい。(おおのぎ じゅんこ)

石川県母親クラブ連絡協議会会長

「職業としての在宅介護」の

社会的な位置づけについて

森川 美絵

在宅介護の担い手に対する政策認識

である「ホームヘルパー」は、戦後に「家庭
奉仕員」という名で、「中年主婦のための
家政婦業」として創り出された（その経緯に
ついては前号を参照）。
「在宅介護の仕事」主婦向き「非専門的な
家事の延長」という構図に従ってホームヘル
パー制度は開始されたが、その構図は現在ま
でどのような変化をとげたのだろうか？ 在
宅介護の担い手に対する政策を、一九八〇年
代までざっと追いかけてみた。

現在の高齢者の在宅介護の中心的担い手

家事の延長」という構図に従ってホームヘル

◇

家庭奉仕員制度（ホームヘルパー制度の前身）が全国で制度化されたのは一九六〇年代初頭だが、制度として本格化するの是一九七〇年代以降のことだ。奉仕員の大増員による制度の「本格化」とは、事業が「ねたきり老人に対する援護事業」として再出発するといふ意味を持った。家庭奉仕員の派遣事業が「ねたきり老人の援護事業」化すれば、家庭

奉仕員の仕事も従来の「日常的な家事」とは異なるはずだ。実際、厚生白書の記述からもそのことが分かる。事業の「本格化」以前、

家庭奉仕員の仕事は「被服の洗濯、補修、炊事、身の回りの世話、話し相手になることなど」とされた。しかし「本格化」に当たり、「家庭奉仕員の仕事は孤独な老人やねたきり老人の日常生活上の身のまわりの世話がおもなる仕事である」と記述された。

とはいえ一九六〇年代・七〇年代をつうじ、家庭奉仕員の派遣先は低所得所帯にかぎ

られていた（一般所帯にまで派遣先が拡大されたのは一九八〇年代以降）。一九七二年の全国の寝たきり高齢者は三〇万人を超しており、そのうち家庭奉仕員が介護を担当していた老人数は五万人程度だった。残りの二五万人の「一般所帯のねたきり老人」の介護のほとんどは、家族や地域住民の「自助努力」にゆだねられた。



とくに一九七五年以降本格化する「福祉見直し」によって、一般所帯の「ねたきり老人」の介護は基本的に家族が担い、家族が担い切れなければ地域のボランティアが担うという、高齢者在宅介護にたいする政策のスタンズはいっそうはっきりした。しかも、政策が

想定し前提したおもな介護の担い手は、家族の中でも「妻や嫁、娘」であり、地域住民の

中でも「婦人・主婦ボランティア」であった。そこには「在宅介護の担い手＝婦人であれば誰でも」という鮮明な構図が存在する。この構図は、「家庭奉仕員制度」の発足当時からまったく変わっていない。

そしてこの構図を前提に、地域での登録ヘルパー制、ボランティア活用によって、社会的な（家族以外の）在宅介護の担い手を確保するシステムをつくりあげようとした。在宅介護の場合は、「職業・賃労働としての活動場」としてよりもむしろ、「在宅介護の職業性」が保障されない場、確立しない場」として編成されてきたのだ。そのような政策のもとでは、賃労働、専門職業として（性別中立的に）正當な評価を在宅介護という行為にくだそうとする認識は欠落していた。

一九八〇年代以降の家庭奉仕員（ホームヘルパー）制度へのパートタイム制の導入・促進、住民の善意を期待した有償ボランティア

によるヘルパー確保の施策は、「仕事として一生活宅介護にたずさわっていききたい人の働きやすい場」ではなく、「主婦の働きやすい場」として、在宅介護の職業づくりがすすめられてきた証拠である。

在宅介護は若者に魅力的な仕事か

高齢者の介護は家庭の女性だけの問題ではなく、男女にかかわらず現実として受けとめていかなくてはならない事柄だと思う。最近の「福祉・介護」への社会的な関心の高まりがたんなるブーム以上のものであるのも、世代をこえて多くの人々の間でそのような意識が共有されているからかもしれない（これは印象の域を出ないけれど……）。若者世代

の間にも、「福祉」に熱意を持つ人はかなりいるのだ。

しかし、男女に関わらず在宅介護を「一生の仕事」として頑張れるだけの条件が、「ホームヘルパー」という職業に現在どれだけ整えられているだろうか？ 基本的には従来の状況とたいして変わっていないのではないか？



というわけで、今回は「在宅介護の仕事」の現在の状況について、わたしの突撃調査(?)を交え書いてみるつもりです。現在、在宅介護の現場で活躍なさっている方も、読者の中に多いのではないのでしょうか？このシリーズを読んでのご感想・ご意見など、ぜひ投稿してください！♣

(もりかわ みえ 東京大学大学院)

投稿・投書募集！！

みなさんからの楽しい投書をお待ちしています。

- 1.本誌に対するご意見
- 2.取り上げて欲しいテーマ
- 3.ちょっといい話
- 4.その他なんでも (字数は800字以内)

〒920 石川県金沢市杉浦町1-1

FAX 0762-31-5175 家族とくらしの会 広岡立美

広岡 立美

●「家族とくらし」発行人

ひなた ぼっこ

ピオトープを

知っていますか

自然を見れば分かる

朝日新聞社から出版されている『植物の世

界』という雑誌があります。最近は大ランダ

にミニガーデンを作ったり、部屋に花のアレ

ンジを飾る人が増え、『フルール』のような

「花のある暮らしを楽しむ」ための雑誌が数

多く出ています。自然を身近に感じていたい

という気持ちの現れでしょうか。『植物の世

界』は、それ等より少し専門的で、百科事典

に近いものです。その一冊「人間がつくった

植生」にこんな文章が載っていました。

ドイツ南部のバイエルン州プフェットラッ

ハ川の話。1950年代に河川改修で川を直

線化し、洪水調整のためパイプラインが併設

された。しかし、1980年代にはいり、こ

の川の一部で、再度の改修が行なわれ、毎年

500mずつ流路を自然に近い形状に戻して

いる。「この曲線の形状は、どのようにして

決めているか」と現地の専門家に尋ねたとこ
ろ「川を長年見ていると、自然にわかる」と
の答えが返ってきたというのです。

この話を聞いて、二つのことで「すごいな

あ」と思いました。まず、長年川を見ている

と曲線の形状が自然にわかるということのす

ごさ。もう一つ、治水性や利水性だけを追求

してきた河川改修が、自然を損ない、川への

親しみを奪うとわかったら、反省して、自然

に近づけるよう再改修を行なうすごさ。

ドイツは環境問題に積極的に取り組んでい

る国の一つで、資源ゴミのリサイクルの徹底

化はよく知られています。自然に対しても、

保護の観点から開発を中止したり、開発の場

所を変更することも聞いています。開

発と自然保護の調和を図るためです。ピオト

ープ（比較的小さなまとまりをもった野生生

物の生息場所のこと）を守るだけでなく、ピ

オトープを創り生物群集の生息場所の確保も

行なっています。

日本ではどうでしょうか。先日読売新聞に『アクティブ市民「豊かさ」の意識変化』と題して山梨県清里に建設中の高原有料道路と付近に住むヤマネの話が載っていました。

道路がヤマネの森を横切るので、その部分をトンネルにしたりブリッジをかけることになったということでした。ヤマネ研究家の湊秋作さんやヤマネ保護運動をしてきた地元の青年教育施設・キープ協会の職員たちの意見が行政を動かしたのです。

日本の環境保護運動を見ると、ヤマネの森を守るとか、ホタルの住む清流を取り戻すというように、ある特定の生物の保護に力を入れることが多く、わたし個人としては、ちよつと違つかない部分もあります。

しかし、環境問題に関心を示す人が増えていくということは喜ばしいことです。レッドデータブックの作成に本格的に取り組み始

めている自治体も出てきました。

生物種はつながっている

ところで、なぜ生物種の絶滅が危惧されるのでしょうか。それは、野生生物の絶滅が生態系に大きな影響を及ぼすからです。波及効果の予測はむずかしいのですが、ある生物種の絶滅が、長い進化の歴史を通じて作り上げられた生物種の適応しあつた関係を壊すものであることは間違いないのです。その結果予測されることは、特定の種の大発生です。大発生する種が例えば病原性の生物であれば人間の生存にも関わることだということは容易にわかります。

例えば1991年に商社を通して欧州から輸入されたセイヨウオオマルハナバチはトマトの受粉用にビニールハウスの中に放されま

した。日本にこれまでにいなかった種です。受粉の手間が省ける優れたものということで全国で使われました。それがビニールハウスを逃げ出し、野外で繁殖し、日本産のマルハナバチの巣を乗っ取り繁殖し続けています。日本のマルハナバチは14種あり、それぞれが特定の植物の受粉に役だっています。在来種がいなくなれば受粉してもらっている植物にも影響が出ます。人間の都合で輸入したものが、今、帰化しようとしています。これを食い止められなければ生態系に大きな影響が出るかもしれません。

人間は人間だけで生きているのではないのです。地球上の全ての生物種はつながっているのです。自分たちの都合だけを考えるのではなく、地球上の生物の一つとしての自覚が大切な時期に来ているように思います。♣

(ひろおか たつみ)

傷ついた子どもたちの心

震災で失った家族への想い

『黒い虹』を読んで

○編集部から

『黒い虹』という本を知っていますか。三年前の一月十七日の朝、阪神地区の多くの家族が悲惨な経験をしました。阪神大震災です。この本は、その時の被災世帯二百四世帯の訪問インタビュー、震災遺児の作文、ボランティアの人たちの奮戦記などを、あしなが育英会がまとめたものです。小学生の子ども（岡の）が読んで、悲しかったし、おかしいなあと思うことがいっぱいあったと話してくれました。そして学校へ持って行って受け持ったの先生にも読んでみてと勧めたのです。その

島先生にも感想を書いてもらいました。

ところで、あしなが育英会は交通遺児救済から出発し、今は災害・病気遺児支援をおこなっているところです。大震災の時には遺児捜しローラー調査をし、五百七十人の震災遺児を確認。その後、災害遺児の心の傷を癒すための「レインボーハウス」建設に向けて募金活動にがんばっています。また『黒い虹』の印税は全額建設費になると聞いています。一人でも多くの方が『黒い虹』を読んで、あの阪神大震災のことを心にとどめておいてほしいものです。♣

『黒い虹』を読んでみましょう

震災遺児の心の傷癒したい

あしなが育英会編、廣濟堂出版、1,300円

震災遺児に心からエールを送り続けたい

島 紀子

あの当時は、連日のように報道が伝えられ、神戸の町の様子が映し出されるたび、そのあまりの変わりようになく然とした。突如襲ってくる震災の恐ろしさに震える思いがした。

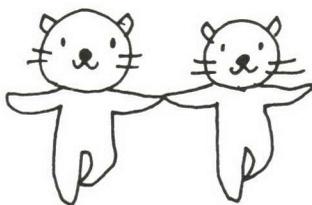
月日がつにつれ、阪神大震災のニュースが流されることもめつきり減ってきた。そして目に焼き付くように衝撃的だった神戸の町並みの様子も、少しずつ私の記憶の中で薄れてきたのも事実だった。この「黒い虹」を読んで、震災で家族を失った人たちの心の傷の深さと、そしてその傷はまだ少しも癒えていないことを知った。そばにいながら助けてあげることができず家族が息を引き取ったと語

った人々の話しに、涙が込み上げてきた。恐らく、その心の傷は、生涯消えることはないのだろうと思う。その傷とともに生きていかれることだと思う。

この本の中で、ボランティアの人たちの援助が何よりありがたかったと、たくさんの人たちが話していた。この神戸のボランティアの方々は、本当に困ったとき、いったい何が必要なのか、いったい何が必要がたいのか、それを見定めて、手を差し伸べることができたのだと思う。多くの傷ついた人たちの心の中で、この大震災はまだ少しも終わっていない。家族を失い、これからその事実を受け止

め、心の傷と共に生きていかねばならない震災遺児の方々と、震災遺児たちの心の傷の深さを思い、触れ合いながら励まし見守り続けるあしなが育英会みなさんに、心からのエールをずっと送り続けたい。♣

(しまのりこ 小学校教員)



生き残った人々の悲しみの深さを想う

河本 あゆみ

年が明けて間もない日の早朝、一瞬にして

悪夢のような大震災の悲劇が起きた。あのころはTVや新聞でも毎日のように話題とされた。でも、今では過去の悲劇として片付けてしまっているような気がする。鉄道や道路が

復旧して、街全体がほぼ復興したような情報
が流れた。あれほど大きな地震の被害が、もうなくなっているのだろうか。建物や道路などの復旧の速さに驚いたり喜んだりしてきた。でも本当はこんなに早く元に戻っていないのではないだろうか。あの大きな地震の被害は形のない人の心にも影響を与えている。

自分をかばったため家族が死んだと思う人。助けを呼ぶ声が聞こえたのに助けられない

かった人。助けようとしたことが、結果的に

殺すことになったと思っている人。自暴自棄になった人。助かった人のほとんどが心に深い傷を受けて、自分が妻や夫の代わりに死ねばよかったと思う人さえいる。

この地震の本当の悲劇は、建物崩壊の数や死傷者の数などの数値だけでなく、このように震災後に残された人々の心の傷の深さではないだろうか。もちろん被害による数値は地震の大きさを示すかもしれない。でもそれ以上に人の心は病んでしまった。ほとんどの人が一度に多くの人に直面したり、自分のそばで死んでいく人の姿を生々しく見せ付けられた。そのような人々が一年や二年で立ち直れ

ないだろう。

それぞれの家族ではそれぞれの苦しみ、悲しみ、辛さがある。私は今までその気持ちをわかつたつもりでいたけれど、私の想像をはるかに越えていた。経験した人にしかわからない痛みかもしれないけど、この『黒い虹』という本をよんで少しは知ったと思う。私が途方に暮れる程悩むことがあっても、その悩みがどれほど小さいかを教えられる。亡くなった一人ひとりの氏や残された者の悲痛な声は、単なる過去のことでない。今も続く阪神大震災の悲劇を、多くの人が知ってほしい。

♣

(かわもとあゆみ 大学生)

シベリアへ

旧ソ連との戦争は一日で終わ

永久凍土の地で

希望も凍り付いた。

シベリアの地は

嘆きの牢獄だったのだ。

終戦を前にした日本には、

灼熱の炎と

突き刺さる鉄の槍が

夜空に舞っていた。

戦争は、今、

全てを蹂躪しようとして

いた……。

村上 誠 text by

し、平和的かつ生産的の生活を 其の健康状態から、一級、二級、
営む機会を得しめられるべし 三級、オカ（四級）に分けられ
（第九項）」という条項がある。 た。

つた。日本が戦争に負け、九月
十七日に日ソ間で結ばれた停戦
協定に基づき、停戦命令が出た
からだ。彼、川口章の部隊は、
その部隊ごと降伏し、武装解除
された。こうして彼らの三年に
及ぶ抑留生活が始まったのであ

それにもかかわらず、約六十
万の関東軍将兵は、捕虜として
一般の在留邦人と共にシベリア
やモンゴルに強制連行された。

これは、日本の徴兵検査と同
じようなものである。徴兵検査
は、丸裸で体の隅々までなされ、
体格体位に依じて、健康状態の
良い者から、甲、乙、丙、丁と
分けられた。甲種、第一乙種、
第二乙種などが現役兵として合

劣悪な抑留生活

る。
「いつ帰れるか、いつ帰れるか、
そればかり考えていた」
実際に旧ソ連側も、「すぐに皆
を東京に帰す」と約束していた。
ポツダム宣言においても、「日本
国軍隊は、完全に武装を解除せ
られたる後は各自の家庭に復帰

抑留生活は、抑留所（収容所
などと呼べるような立派な建物
はなかった）までの二百キロメ
ートル行軍で始まった。三日間
野宿をしながら歩き続け、つい
ていけない者は見捨てられた。
抑留所に着くと、すぐさま身
体検査をされた。全ての捕虜は、
は重労働、三級は軽作業が割り

る。
「いつ帰れるか、いつ帰れるか、
そればかり考えていた」
実際に旧ソ連側も、「すぐに皆
を東京に帰す」と約束していた。
ポツダム宣言においても、「日本
国軍隊は、完全に武装を解除せ
られたる後は各自の家庭に復帰

抑留生活は、抑留所（収容所
などと呼べるような立派な建物
はなかった）までの二百キロメ
ートル行軍で始まった。三日間
野宿をしながら歩き続け、つい
ていけない者は見捨てられた。
抑留所に着くと、すぐさま身
体検査をされた。全ての捕虜は、
は重労働、三級は軽作業が割り

られたる後は各自の家庭に復帰
された。こうして彼らの三年に
及ぶ抑留生活が始まったのであ

抑留所に着くと、すぐさま身
体検査をされた。全ての捕虜は、
は重労働、三級は軽作業が割り

当てられ、オ力は一日休むことができた。

作業の内容としては、一、二

級は主に鉄道工事、三級は製材所のおが屑処理をした。

「体がいいからやらされるだけで、食ってないんだからなにもできはしないよ」

馬グソイら食べ物に見えた

抑留生活での食事といえは、毎日、そして、三食ほとんどがスープであった。今の缶詰より一回り大きな缶に八分目ほど入った水っぽいスープ。具などはいつているか怪しいほどのもの

で、それに黒パンがついた。おかずと呼べるものはどこにもありはしなかった。

「それに慣れちゃったのか、この人、戦争から帰ってもずっと、雑炊のようなものばかり食べたがったのよ。こっちはもう食べ飽きちゃっていたから、たまつたものじゃなかったわ」

彼の妻は、笑みを浮かべながら呆れた調子で言う。

話を戻そう。抑留所では、次の日の朝食が前日の夜に支給される。だが、空腹のために食べてしまう者、人の食料に手を出してしまう者、つまり、盗みをするものが続出した。

「食うこと以外の欲ないね。何をみても食べ物に見える。馬グソも凍っているから饅頭に見えたよ」

今でこそ、笑って語る彼だったが、シベリアの極寒と飢えに耐えねばならない生活は想像を絶する。

極寒といえは、シベリアの冬は言うまでもなく厳しいものであった。防寒具といえは、軍の外套と旧ソ連から支給されたフ

エルト地の長靴だけで、着ている服は軍服のみ。三年間着替えることすらできなかった。彼らはそんな姿で三度もシベリアの冬を越したのである。

当然、凍傷になる者が続出した。寒さと飢えと疲労で多くの抑留兵が発病し、死んでいった。

「俺も凍傷になつてね。なんかツメテエな、と思つたら、俺の長靴の指先だけ穴が開いてやがってさ、足の指が凍傷になつちまつたよ」

慌てつ奴は早死にいた

ところで、インタビューしていて感じたのだが、彼はどこまでも陽気だ。辛かったであろう体験談をしているにもかかわらず、決して卑屈な物言いをしない。それどころかむしろ、こち

らが面食らうほど楽しそうに話してくれる。

耐えきれないんだよ。ホント、耐えきれないよ。死ぬよ」

戦争のイメージは、そして、

彼は、こうも言った。

戦争をテーマにした作品は、えてして悲劇を強調する。だが、

「二回ああいう経験を本当はするべきだと思つよ。今の若い人は、

ツリポツリと出てくる言葉が胸に響く。彼の話は、五十年の年月の間に彼の内部で培われ裝飾された「物語」などではない。彼の話は……そう、言い表された、言葉にすると軽薄だが、言い表された心の声だ。

「戦争をやるのは、結局、軍人じゃなくて財界人でしょ」
現在、稲城市で居酒屋を営んでいる白石順章（六十二歳）は、眉間に皺を寄せてそう言った。

彼の明るさは、戦争に滑稽なイメージを植え付ける。悲劇であるがゆえにその滑稽さは強調される。

我慢ができない。する必要もないけど。でも、シベリアでは我慢できない奴は皆死んでいったよ」

彼は、このインタビューの間、俺の話なんか聞いてもつまらない、たいした体験なんてしてないんだからつまらないよ、と言いつづけた。彼は、多くを語らない。抑留体験も、長い時間をかけて聞いた。だが、それゆえ、人のよい笑みの下から、時折ボ

「戦争はバカバカしいよ。本当にバカバカしいよ。あんなバカバカしいことはないよ、勝つても負けてもね。喜ぶのは上の者だけだから。戦争に行く者が一番貧乏くじだね」
彼は、一九四五年の東京大空襲を体験したのだが、当時のことを深夜の仕事を終え、焼酎を片手に語ってくれた。
「私が体験した大空襲は三つあります。忘れもしないね。一つは、昭和二十年二月二十六日の大空襲。あの日は大雪が降ってたね。二つ目は、三月十日。この日は確か陸軍記念日だった。三つ目は、五月二十日の大空襲」

「ロスケはなかなかいいですよ。人をバカにしない。人種をバカにしない。日本人は、すぐ差別するけどね」

彼は、このインタビューの間、俺の話なんか聞いてもつまらない、たいした体験なんてしてないんだからつまらないよ、と言いつづけた。彼は、多くを語らない。抑留体験も、長い時間をかけて聞いた。だが、それゆえ、人のよい笑みの下から、時折ボ

「戦争は財界人のもの」

「慌てる奴は早く死んだね。そういう奴はガツガツしちやってる。」

4

「慌てる奴は早く死んだね。そういう奴はガツガツしちやってる。」

4

戦争は財界人のもの

は、五月二十日の大空襲」

彼は当時泊江市に住んでいた。

つていたときにはもう頭の上に

に染まっていた。この日の爆撃

「雨あられなんてもんじやないで

二月二十六日の大空襲は、午前

B29が見えるんだもん。たま

は、死者八万人以上、全焼家屋

すよ」

七時から午後七時まで七波にわ

つたもんじやなかつたですよ」

は二十六万戸、罹災者百万人、

米軍は中島飛行機（現日産）

たった。この日来襲したのは、

真っ赤に染まる夜空

都心の約四十二平方キロメート

を狙って爆撃しようとしたが、

F6F、SB2Cなどで、低空

真っ赤に染まる夜空

ルを焼き尽くすという空前の大

が焼けることになったのではな

から爆弾、焼夷弾を落とし、機

銃掃射してきた。だが、彼は特

爆撃であった。

いか、と彼は振り返る。

に命に関わるという実感はなく、

来襲した。B29。正式名称

一度は死を覚悟した

降り掛かる焼夷弾と炎の中、

ただ大雪が降っていたというこ

「ボーイングB29スーパーフォ

五月二十四日、B29約二百

彼は死を意識した。

とだけを記憶しているという。

ートレス（超・空の要塞）。軍

五十機が東京を夜間爆撃。自分

「その日はかりは、今晚生きてい

三月十日の時は、前回とは様

用機としては当時最大級で、全

の通う小学校が空襲で焼けた。

られるのかと考えましたよ」

子が違っていた。

長三十メートル、全幅四十三メ

彼はなぜか、学校に向かつて走

恐怖の一夜であった。

「ラジオが入るときは、まずヘジ

ートル。千トンの爆弾を搭載し、

学校に着くと、ちょうど国旗

以下次号

ーVって鳴ってから情報が流れ

航続距離五千六百キロ。一万メ

っていた。

以下次号

るんですけどね、その日はラジ

ートルの高度を最大時速五百八

学校に着くと、ちょうど国旗

掲揚塔が焼夷弾の直撃を受け、

オでヘジ。東部軍管区情報、

十キロで飛ぶ超重爆撃機である。

掲揚塔が焼夷弾の直撃を受け、

（むらかみ まこと）

東部軍管区情報……Vなんてや

見上げると北東の空が真っ赤

倒れた。

パ ッ ラ の 使 天

晩秋から冬にかけての宮崎市

の夕映えはすばらしい。どこの町に、こんな美しい夕映えがあるだろうかと自慢したくなる。

特に、宮崎市の中央を流れる

大淀川の川べりに立って、遙か

西に向かって霧島の山を眺めた

時の夕映えは、それこそ山と川

と、天と地と、宮崎市の町全体

が茜色に包まれて、思わず息を

とめる。

ドブックに携えて、一人で宮崎

市を訪れた。古事記に出てくる

「朝日の直射す国、夕日の日照

る国」である日向の国、即ち宮

崎を訪れることが、川端康成の

青春時代からの憧憬であった。

その願いがかなって、大淀川

畔に宿をとった川端康成は、宮

崎に着いたその日の夕映えのあ

まりにも神秘的な美しさに魅せ

られて、もう一晚、もう一晚、

とうとう十五日間も滞在した。

この宮崎市の夕映えを心から

愛したのが、かのノーベル賞作

家の川端康成であった。

川端康成は、昭和三十九年十

一月十六日、古事記一冊をガイ

縁あって、川端康成の滞在中、

ずっと案内をつとめた私は、あ

る一日、日南海岸のサポテン園

に行った。

綱 纜 渡 辺

冬も間近で、南国とは言いながら、花の一番少ない時期であった。

です」と、川端康成。

そばにいたサポテン園の従業員が、「木立朝鮮朝顔です」と、

私にささやいた。

「先生、木立朝鮮朝顔と申します」。

ところが、サポテン園の片隅に、ちょうど朝顔の花を何倍も大きくしたような白い花がいく

つもぶら下がっている木が並んでいた。

川端康成は、その花の前で足を止めた。

その時、何台かの観光バスが、クラクションを鳴らしながら通り過ぎた。その音を聞いて、私は、はっとした。ずっと前に聞いた花の名前を思い出したのである。

「この花は、何と言う花でしょうか」。

「先生、思い出しました。この

「夕チユラと、私共は呼んでいます」と、私は答えた。

川端康成の最後の作品となり、NHKの朝の連続テレビ小説にもなった「たまゆら」には、サポテン園で出会った天使のラ

「夕チユラですか、変な名前です。花にふさわしくない響き

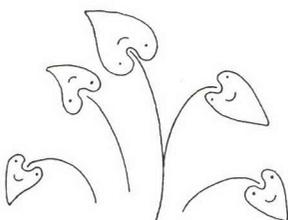
「天使のラッパですか、そうですね、本当に天使のラッパです」。

「先生、思い出しました。この

川端康成は、何度もうなずいた。そして、ポケットから手帳を取り出すと、大きな字で天使のラッパと書いた。私の顔をじっと見つめながら、もう一度つぶやいた。

「天使のラッパですか」。

（わたなべ・つなとも
宮交シテイ社長）



北京の片隅から

李欣欣 中国人民友好協会勤務

この頃

よう。

している私では中文系の

◇

「この頃、稟議書の中国語がなんだか和式の中国語になったみたい」。

持ちは、吉林大学外文系で日本語文学を勉強しているとき味わって以来だ。

世界で他の人に勝てない、という残念な確信に辿り着いてしまった。

その度ごとにながかりした気持ちになったものだが、今にして思えば、

上司から今年是中国語に専念したら、と注意された。

だ。

◇

もつとも、ギター好きが高じて歌詞を書いてみるようになってから、また詩の創作に夢中になつてしまふのだが……。

友達からはもつと直接的に言われた。

一年生の時、誇り高いとか、自惚れているとか、排他的とかいろいろ噂されていた「詩社（詩を作るクラブ）」に入った。

次は二年生の時。日本語会話の小野先生から「貴方の中国語の才能は日本語を習うにはもつたない」と言われた。

「この頃、日本語が下手になったんじゃない」。

「そう？」と軽く答えたものの、仕事で国際電話が掛かってきた時、口が凍り付くようになった気がしないでもない、と反省。

褒められたのか、日本語が上達しないことを皮肉られたのか……。△三改められる冬になつてほしい。♣

自信喪失して、こんな感じかな。留学のジレンマなのか、今は中国語も日本語も下手になっている

その年の冬の発表会に参加できることになった。

でも、喜んだのもつかの間、毎日日本語と格闘道がなかった。

掛かってきた時、口が凍り付くようになった気がしないでもない、と反省。

その年の冬の発表会に参加できることになった。

でも、喜んだのもつかの間、毎日日本語と格闘道がなかった。

自信喪失して、こんな感じかな。留学のジレンマなのか、今は中国語も日本語も下手になっている

その年の冬の発表会に参加できることになった。

でも、喜んだのもつかの間、毎日日本語と格闘道がなかった。

自信喪失して、こんな感じかな。留学のジレンマなのか、今は中国語も日本語も下手になっている

その年の冬の発表会に参加できることになった。

でも、喜んだのもつかの間、毎日日本語と格闘道がなかった。

自信喪失して、こんな感じかな。留学のジレンマなのか、今は中国語も日本語も下手になっている

その年の冬の発表会に参加できることになった。

でも、喜んだのもつかの間、毎日日本語と格闘道がなかった。

(リキンキン)

女性の自分育てを応援する雑誌



600円

家族とくらし 3号

1997年3月10日

発行所 家族とくらしの会

発行人 広岡立美

920石川県金沢市杉浦町1-1

マーク けらえいこ 題字 弓削明子 表紙 大前未央